

北九州市立自然史・歴史博物館
(北九州市立いのちのたび博物館)
年報
令和5年度



リニューアルしたぽけっとミュージアム No. 8「理科室と博物学」

ごあいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）は、自然史・歴史・考古の3博物館が統合して平成14（2002）年11月3日に開館し、令和5（2023）年11月3日に開館21周年を迎えました。令和5年度は431,278人のお客様をお迎えすることができました。当館の活動に多くの方々のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響が各方面に及んでいましたが、令和5年5月8日付で5類感染症に移行し活動の制限が緩和されたこともあり、当館のにぎわいも新型コロナウイルス感染症の拡大以前の水準に戻りつつあります。

昨年度は、開館20周年を迎えた一昨年度に引き続き、常設展の展示リニューアルを実施しました。歴史ゾーンのヒストリーアートギャラリーの新設をはじめ、自然史ゾーンの自然発見館やぽけっとミュージアムの展示更新もおこない、皆様に楽しみながら学んでいただけるコンテンツを増やすことができました。これからも博物館の魅力向上を目指し、職員一同研鑽を積み、職務に取り組んでまいります。

ここに令和5年度の年報を刊行いたします。本号には、昨年度実施したリニューアルの内容につきましてもまとめています。新たな魅力を得た当館の活動を多くの方々に知っていただき、これまで以上に地域に根ざしながら、世界に向けて発信できる博物館を目指してまいります。皆様には引き続き、積極的なご意見とさらなるご協力を賜りますようお願いいたします。

令和6年8月

北九州市立自然史・歴史博物館長
伊澤 雅子

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

<理 念>

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

<方向性>

知的アクセス権を保障する博物館...知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館...将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館...社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

目次

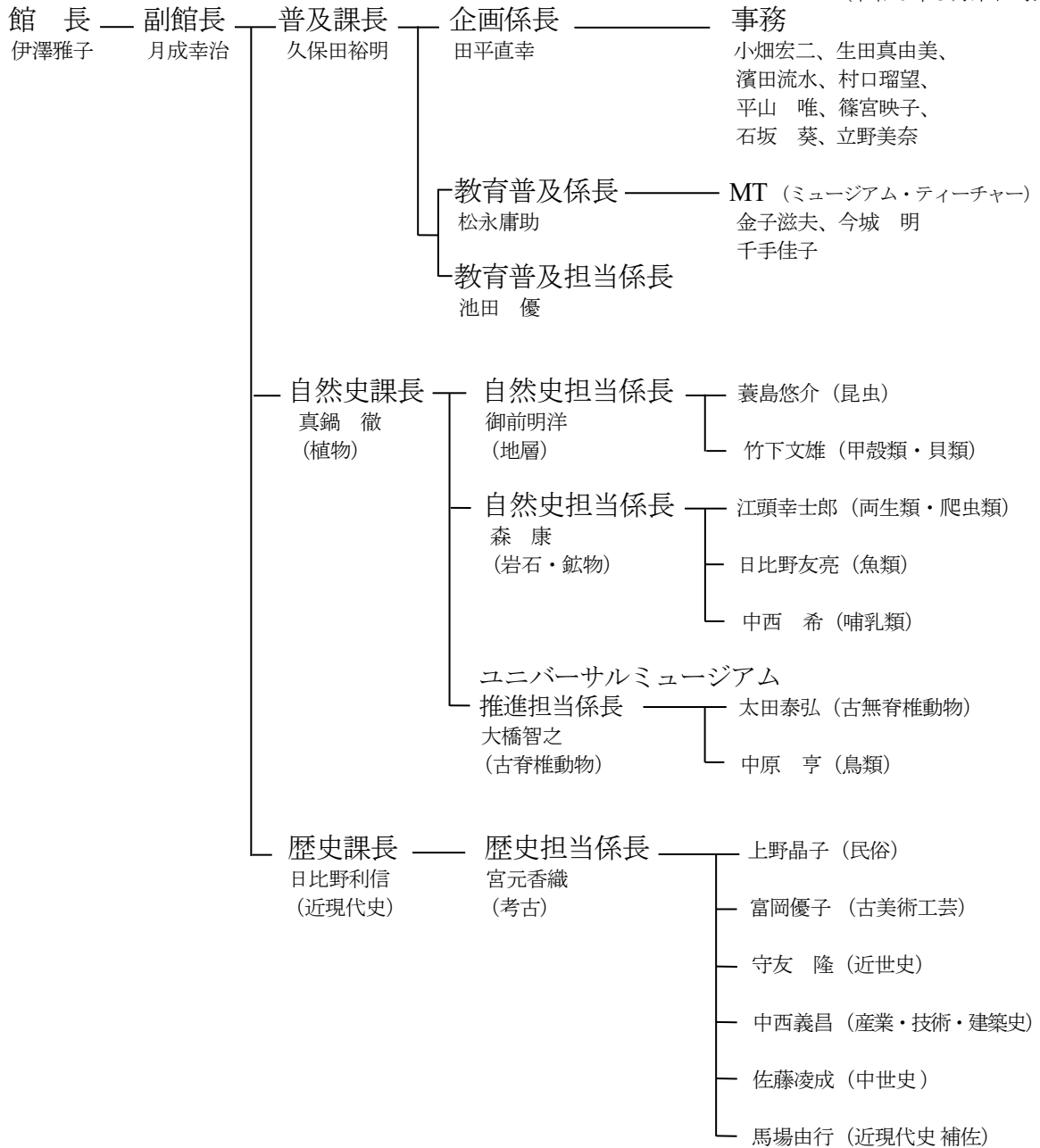
ごあいさつ

	頁
1. 組織・運営体制	1
2. 博物館協議会	2
3. 博物館評価	3
4. 令和5年度予算	4
5. 施設概要	5
6. 沿革	6
7. 入館者の状況	10
8. 広報・報道実績	11
9. 市制60周年記念事業	12
10. 特別展	16
11. 企画展・その他展示	26
12. 中核施設としての重点事業	35
13. 教育普及事業	37
14. ボランティア組織の活動	47
15. 博物館友の会の活動	49
16. 資料の収集保存状況	51
17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）	54
18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）	55
19. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）	56
20. 研究業績	58
21. 博物館刊行物	65

1. 組織・運営体制

(1) 令和5年度組織

(令和6年3月末日時点)



(2) 名誉館員

藤丸詔八郎 (2005.4.1) 戸来義臣 (2007.4.1) 税田昭徳 (2007.4.1) 藤井厚志 (2008.4.1)
 岡崎美彦 (2010.4.1) 永尾正剛 (2011.4.1) 有川宜博 (2012.3.1) 上田恭一郎 (2013.4.1)
 伊藤明夫 (2015.4.1) 山根明弘 (2016.4.1) 山家桂一 (2018.4.1) 藪本美孝 (2018.4.1)
 下村通誉 (2018.4.1) 武石全慈 (2018.4.1) 馬場 稔 (2019.4.1) 松井和幸 (2019.4.1)

※ 括弧内は、就任日

2. 博物館協議会

(1) 博物館協議会委員 (任期 令和3年9月1日～令和5年8月31日) ※委員は五十音順

会長	阿部 芳久	九州大学大学院比較社会文化研究院教授*
副会長	岩松 文代	北九州市立大学文学部教授*
委員	井上 龍子	八幡駅前開発株式会社代表取締役
	緒方 泉	九州産業大学地域共創学部教授 (大学美術館長)
	川津 博司	北九州市立浅川中学校校長*
	杉山未菜子	福岡市経済観光文化局博物館事業管理部運営課長
	染川 香澄	ハンズ・オン プランニング代表
	富田 幸光	国立科学博物館名誉研究員
	針尾 泰久	北九州市立赤坂小学校校長
	三島美佐子	九州大学総合研究博物館教授
	吉田 涼香	北九州市立大学文学部学生

*博物館外部評価小委員会委員

(2) 開催日時

令和5年8月22日 13:30～16:00 対面で開催

(3) 協議内容と主な意見

1) 令和4年度の事業実績について

- ・業務の省力化やDX化は地方自治体でも急務であろうが、これまで築いてきた研究体制は堅持してもらいたい。

2) 令和4年度の博物館評価について

- ・次章参照

3) 令和5年度の事業計画について

- ・資料のアーカイブにおいて画像データは重要である。将来的には充実させていただきたい。

4) その他

- ・秋の特別展(トイレのうんちく展)に関連し、館内のトイレにうんちくを掲示するという手法はよいと思う。今後の展示会のお知らせなども、同様の手法で周知すればよいかもしれない。
- ・東田ミュージアムパークの一環として、来館者のために最寄り駅から博物館への経路に樹木を植えて日陰を創出するなどの工夫ができるのではないか。
- ・博物館を取り巻く風景が印象的であれば、より世界に向けた発信力の強化につながる。北九州市をイメージできる自然や歴史を題材とした新たな風景を創出してもらいたい。

3. 博物館評価

(1) 評価方法

1) 評価項目

資料収集・保管活動や調査研究活動など常置 7 評価項目に加え、その他として北九州ミュージアムパーク創造事業を評価項目として選定した。

2) 評価基準

各評価項目は、A：大変良い、B：概ね良い、C：やや不十分、D：不十分の4段階で評価した。評価に際しては、北九州市の目標管理制度を参考に、定量的な基準および定性的な実績を総合的に加味し、達成度が120%以上の場合をA、120～80%をB、80～40%をC、40%未満をDとした。

3) 自己評価

各評価項目に係る活動を、博物館職員が上記の評価基準に則り評価した。

4) 外部評価

博物館協議会委員から、同協議会会長を委員長とする3名の外部評価小委員会委員を選出した。これら3委員による外部評価小委員会において、博物館に対するヒアリングなどを行い、外部評価小委員会案を作成した。その後、博物館協議会において同案を審議し、必要に応じて修正を行い、外部評価を確定させた。

(2) 令和4年度の評価

1) 資料収集・保管活動	自己評価：C	外部評価：C
2) 調査研究活動	自己評価：B	外部評価：B
3) 展示活動	自己評価：B	外部評価：A
4) 教育普及活動	自己評価：A	外部評価：A
5) 広報・情報発信活動	自己評価：A	外部評価：A
6) 市民との連携	自己評価：A	外部評価：A
7) 社会貢献	自己評価：A	外部評価：A
8) その他（北九州ミュージアムパーク創造事業）		
	自己評価：A	外部評価：A
<総合評価>	自己評価：B	外部評価：B

(3) 総合評価に係る協議会での意見

- ・博物館活動の根幹である調査研究の成果は着実に挙がっており。他の活動とのバランスもとれているため良好な状態と思う。
- ・博物館の根幹ともなる評価項目1～3がA評価になるためには、さらなる業務を上乘せするのではなく、力を注ぐ業務の配分を変えることも大切ではないか。
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行をうけた令和5年度の実績にさらに大きな期待をしている。

4. 令和5年度予算

歳 入 (単位：千円)		歳 出 (単位：千円)	
博物館使用料 (常設展入館料、駐車場料金など)	165,166	企画展・特別展開催経費	55,570
社会教育施設貸付料	1,428	資料整備・調査研究経費	11,555
社会教育施設目的外使用料 (ミュージアムショップ使用料など)	1,371	教育普及経費	2,324
企画費雑入 (特別展観覧料、刊行物販売など)	50,925	博物館維持管理経費等	405,136
計	218,890	計	474,585

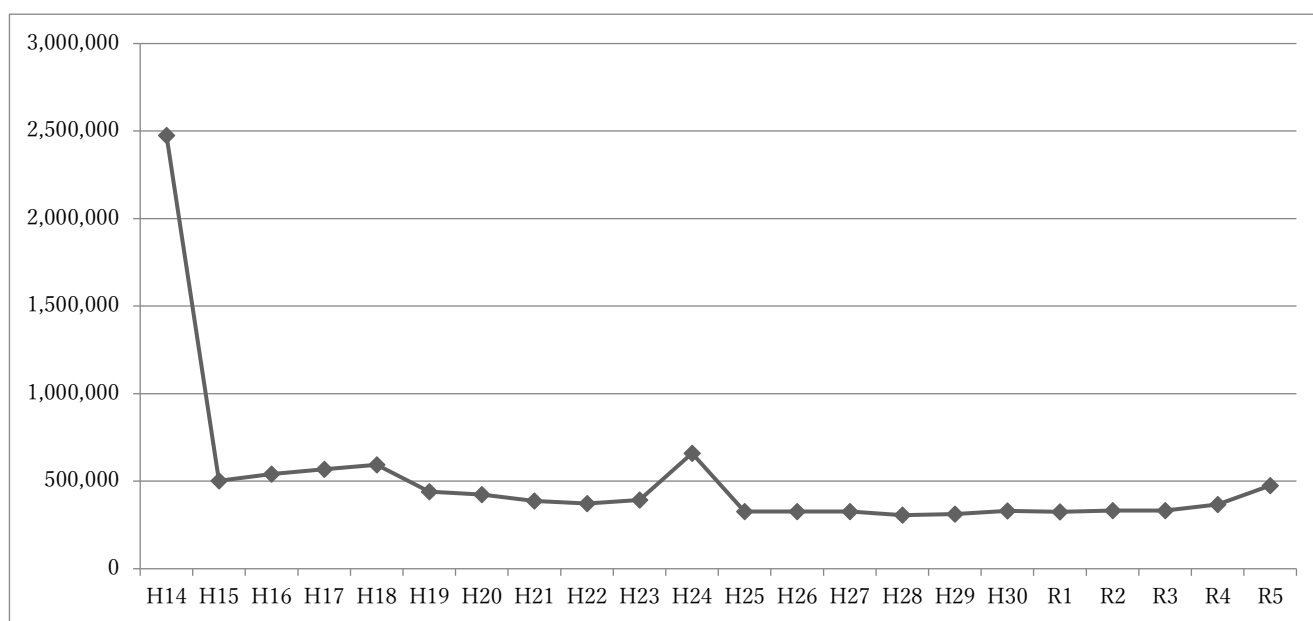
博物館予算(歳出)の推移

(単位：千円)

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467	441,058	424,070	387,868
備 考	H14.11.3 開館		内、太陽光 発電設備整 備 32,000	内、太陽光 発電設備整 備 60,000	内、太陽光 発電設備整 備 108,000			
年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
予算額	372,731	392,184	659,576	326,569	326,913	327,833	306,067	312,067
備 考			内、博物館展示・ 施設等改修事業 300,000					
年 度	H30	R1	R2	R3	R4	R5		
予算額	330,620	325,027	332,904	332,719	368,013	474,585		
備 考					内、開館20周 年記念イベント事 業 40,300	内、博物館外 壁改修外工事 104,000		

博物館予算(歳出)の推移 (グラフ)

(単位：千円)



5. 施設概要

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨構造）地上3階

各室面積（単位：㎡）

室名	面積	室名	面積	室名	面積
展示部門	6,232	研究処理部門	871	管理部門	624
アースモール（PMを除く）	1,885	地学系研究室	57	館長室	25
ぼけっとミュージアム（PM）	253	生物系研究室（植物・昆虫）	29	副館長室	25
エンバイラ館（リサーチゾーンを含む）	1,067	生物系研究室（動物・魚類）	29	事務室	163
自然発見館（バイオリウムを含む）	581	歴史研究室	87	応接室	32
ギャラリー館	509	骨格標本作成室	36	会議室	62
歴史展示（カルチャーモールを含む）	1,755	燻蒸室（前室を含む）	30	印刷室・出版物保管室	29
こどもミュージアム（乳幼児対象）	89	解剖室	46	救護室	21
こどもミュージアム（小学生対象）	93	無脊椎動物化石処理室	30	更衣室	13
		脊椎動物化石処理室	30	一般倉庫	57
		岩石鉱物処理室	37	交流員控室	25
		昆虫標本処理室	30	管理人室	26
		動植物標本処理室	60	会議室 S	30
情報部門	1,018	液浸標本処理室	30	会議室 R	30
		技工室	60	会議室 X	49
ホール（オープンギャラリーを含む）	509	整理室	60	外来市民研究室	37
ガイド館（倉庫2を含む）	386	暗室（前室を含む）	26		
市民ライブラリー	45	撮影室	41		
		電子顕微鏡室	40		
		コンピューター室	28		
探究部門	204	保存科学室	40		
実習室	123	薬品室・特殊薬品室	25		
講座室	81	シャワー室	6		
		器材倉庫	14		
収蔵部門	2,506				
荷解室	96				
一時保管室	64				
組立室	52				
冷凍室・冷蔵室（前室を含む）	49				
地学系収蔵庫	202				
液浸標本収蔵庫	221				
重量物収蔵庫	204				
植物標本収蔵庫	234				
動物標本収蔵庫	165				
昆虫標本収蔵庫	238				
模式標本収蔵庫	44				
歴史資料収蔵庫	430				
考古資料収蔵庫（金属器を含む）	75				
特別収蔵庫	71				
古文書・古美術収蔵庫	140				
書庫	138				
展示準備室	83				
				サービス部門	463
				ミュージアムショップ	156
				休憩ルーム	206
				休憩デッキ	101
				供用部門	5,171
				合計	17,011

6. 沿革

昭和 50(1975)年	8月	北九州市立歴史博物館が小倉北区内に開館 (8/1) 【歴史】
昭和 51(1976)年	10月	小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン科魚類化石 ディプロミスタスが発掘される【自然史】
昭和 53(1978)年	4月	戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置【自然史】
昭和 54(1979)年	1月	「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行 (1/7) 【自然史】
昭和 56(1981)年	5月	北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの2・3・4階を仮施設として開館 (5/2) 【自然史】
昭和 58(1983)年	8月	北九州市立考古博物館が九州最初の考古学専門博物館として小倉北区金田一丁目に開館 (8/1) 【考古】
昭和 59(1984)年	9月	北九州市と大連市の友好都市締結5周年記念として、中国大連市の大連自然博物館で「世界の 昆虫」展を開催【自然史】
	12月	響灘沖から巨大珪化木の引き上げ【自然史】
平成 5(1993)年	4月	考古博物館友の会発足【考古】
平成 7(1995)年	5月	展示解説ボランティア制度発足【考古】
平成 8(1996)年	7月	展示解説ボランティア制度発足【自然史】
	10月	「東田地区文化施設整備構想検討委員会」(委員長 有馬朗人 東京大学名誉教授) が、「環境」 を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の4館からなるシャイン博物館構想「東田 地区文化施設の整備の方向について」を報告
平成 11(1999)年	6月	(仮称) 北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
平成 13(2001)年	3月	(仮称) 北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工
平成 14(2002)年	11月	北九州市立自然史・歴史博物館が開館 (11/3) 小野勇一館長が就任 (11/3) 開館記念特別展「セイスモサウルスとその世界」(11/3～12/28 : 56日間)
平成 15(2003)年	3月	開館記念特別展「COME BACK～よみがえれ文化と生きものたち～」(3/1～4/6 : 37日間)
	4月	特別展「ミネラルワールド九州・山口 わたしたちのまわりの鉱物展」(4/26～6/8 : 44日間 : 25,871 人)
	7月	特別展「発見！虫王国」(7/19～8/31 : 44日間 : 79,687人)
	9月	特別展「恐竜時代の生き物たち」(9/19～10/13 : 25日間 : 12,828人)
	10月	特別展「発掘された日本列島2003」(10/26～11/30 : 36日間 : 11,260人)
	12月	企画展「絵で見る植物の世界」(12/6～12/23 : 18日間)
平成 16(2004)年	1月	企画展「博物館のお正月」(1/2～2/1 : 31日間)
	3月	企画展「博多祇園山笠展～まつりにみる福岡の歴史～」(3/5～4/11 : 38日間)
	4月	特別展「葛飾北斎展」(4/23～5/23 : 31日間 : 14,262人)
	7月	特別展「からくり・ロボット体験ランド」(7/17～9/5 : 51日間 : 50,712人)
	10月	企画展「～片山正信氏の版画に見る～昭和の北九州百景」(10/1～12/26 : 87日間)
	10月	企画展「襤褸の世界～堀切辰一・布のいのち見つめて～」(10/8～11/28 : 52日間)
平成 17(2005)年	1月	特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」(1/2～2/20 : 50日間 : 11,590人)
	3月	特別展「なぜ？なに？動物ワールド」(3/19～5/8 : 51日間 : 26,638人)
	7月	特別展「生きもの大集合 世界の両生・爬虫類展」(7/16～9/4 : 51日間 : 76,623人)
	10月	入館者100万人達成！(10/26)
	11月	特別展「大名細川家～文と武の軌跡～」(11/18～12/11 : 24日間 : 3,739人)
	12月	特別展「恐竜博2005～恐竜から鳥への進化～」(12/23～3/31 : 99日間 : 207,397人)
平成 18(2006)年	4月	企画展「化石王 三葉虫」(4/29～5/28 : 30日間)
	7月	特別展「昆虫ワールド・カップ2006」(7/15～9/3 : 51日間 : 76,008人)
	9月	企画展「アイヌ文様の美～線のいのち、息づくかたち～」(9/23～11/26 : 65日間)
	12月	特別展「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展～司馬遷『史記』の世界～」(12/14～3/31 : 104日 間 : 63,811人)
平成 19(2007)年	4月	企画展「有明海 干潟を育む生き物と文化～中尾勘悟写真展～」(4/15～5/6 : 22日間)
	7月	開館5周年記念特別展「世界最大の翼竜展～恐竜時代の空の支配者～」(7/7～9/2 : 58日間 : 96,103

- 人)
- 10月 開館5周年記念特別展「修験の歴史と自然～西日本の山の信仰～」(10/12～11/11：31日間：2,580人)
- 12月 特別展「フェアブルにまなぶ」(12/22～2/11：52日間：18,658人)
- 平成20(2008)年 3月 入館者200万人達成！(3/22)
企画展(開館5周年記念事業)「5年間のあゆみ展」(3/22～4/6：16日間)
- 4月 企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」(4/19～5/11：23日間)
- 7月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「近代北九州百年の歩み」を仁川広域市立博物館で開催(7/19～9/21：65日間)
特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」(7/12～8/31：51日間：56,360人)
- 8月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「開港場仁川の情景」(8/2～10/5：65日間)
- 10月 特別展「美しき九州の旅～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行～」(10/11～11/30：51日間：6,659人)
- 平成21(2009)年 1月 特別展「小倉のお殿さま～小笠原家と城下町～」(1/2～2/8：38日間：6,513人)
- 3月 企画展「ひとと海のものごたがり」(3/1～5/10：71日間)
- 5月 企画展「自然史友の会って何？ 友の会30年のあゆみと活動」(5/23～6/14：23日間)
- 7月 特別展「恐竜ラボ2009～よみがえれ！恐竜ワールド」(7/18～8/31：45日間：64,628人)
- 9月 特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」(9/19～11/23：66日間：30,266人)
- 平成22(2010)年 1月 特別展「布のこころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」(1/2～2/21：51日間：6,567人)
- 2月 中国大連市の旅順博物館と友好交流協定を締結(2/6)
- 3月 特別展「どうぶつ大集合！肉食系？草食系？なにをたべているのかな？」(3/20～5/30：72日間：28,327人)
- 4月 伊藤明夫館長が就任(4/1)
- 7月 特別展「昆虫大接近！～みんなであそぼう・虫たちの森～」(7/17～9/5：51日間：71,641人)
- 10月 特別展「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」(10/9～11/28：51日間：4,881人)
- 11月 仁川広域市立博物館、旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」調印(11/6)
- 平成23(2011)年 1月 特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」(1/2～3/31：89日間：22,598人)
入館者300万人達成！(1/15)
- 2月 入館者300万人達成記念「ありがとう祭」(2/11～13：3日間)
- 4月 特別展「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(4/23～5/31：39日間：19,297人)
- 7月 特別展「世界の両生類・爬虫類大集合！」(7/16～9/4：51日間：74,797人)
- 10月 特別展「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展／鉄道展～あじあ号から新幹線へ～」(10/7～12/11：66日間：11,493人)
- 2月 特別公開「小惑星探査機『はやぶさ』帰還カプセル」(12/22～12/25：4日間：11,158人)
- 平成24(2012)年 1月 特別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」(1/2～2/12：42日間：4,559人)
- 3月 特別展「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」(3/10～5/6：58日間：25,121人) 同時開催「みんなで救った被災標本展」(同期間：6,857人)
- 7月 特別展「対決！恐竜展」(7/14～9/23：72日間：102,921人)
- 10月 特別展「いのちのたび博物館10年のあゆみ～とっておきのコレクションが勢ぞろい～」(10/20～12/2：44日間：30,283人)
- 11月 開館10周年記念行事(11/3～4)
- 12月 リニューアル工事休館(12/3～3/22)
- 平成25(2013)年 3月 リニューアルオープン(3/23)
- 4月 北九州市制50周年記念特別展「北九州市の宝もの」(4/20～6/16：58日間：30,740人)
- 7月 北九州市制50周年記念特別展「世界の昆虫展」(7/13～9/1：51日間：125,805人)
入館者400万人達成！(7/25)
- 9月 北九州市制50周年記念特別展「邪馬台国が見える!! 古代日本の原風景」(9/14～11/4：52日間：20,990人)
- 12月 北九州市制50周年記念特別展「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」(12/21～28, 1/2～2/11：49日間：24,852人)
- 平成26(2014)年 3月 特別展「まるごと猫展」(3/15～6/1：79日間：54,700人)
年間入場者60万人超達成！(3/31：622,701人。過去10年間[H15～24]の最多は平成17年度

		483,495人で、平均は363,379人)	
平成 27(2015)年	7月	特別展「THE モンスター展～自然界の怪物たち～」(7/19～9/23：67日間：117,585人)	
	11月	特別展「メタルズ！～変容する金属の美～」(11/1～12/23：53日間：11,448人)	
	3月	特別展「地球からの贈り物～石の美と魅力～」(3/21～5/10：51日間：26,182人)	
	4月	上田恭一郎館長が就任	
平成 28(2016)年	7月	入館者500万人達成！(7/4)入館者500万人達成記念特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」(7/11～9/23：75日間：102,123人)	
	10月	入館者500万人達成記念特別展「医は仁術～解体新書からiPS細胞まで～」(10/10～1/11：90日間：20,058人)	
	1月	特別展「大正・昭和の暮らしと風景～版画に見る／布が語る～」(1/23～2/28：37日間：6,535人)	
	3月	特別展「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」(3/19～5/15：58日間：30,891人)	
	7月	特別展「恐竜博2016」(7/9～9/4：58日間：125,153人)	
平成 29(2017)年	10月	特別展「関門幕末維新伝」(10/1～11/27：58日間：15,327人)	
	11月	第1回東アジア友好博物館巡回展「着物が語る日本の心」(11/12～12/11：29日間)	
		その後 旅順博物館および仁川広域市立博物館に巡回(中国大連市旅順博物館 2017年1/10～2/5：27日間：9,365人、韓国仁川広域市立博物館 2017年2/14～3/19：33日間：8,727人)	
	1月	特別展「発掘された日本列島2016」(1/2～2/19：49日間：10,826人)	
	3月	特別展「ホントはすごい！どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」(3/18～5/14：58日間50,594人)	
	7月	開館15周年記念イベント第1弾(7/14～9/3) 開館15周年記念特別展「大昆虫博」(7/15～9/3：51日間：122,294人) 入館者600万人達成！(7/27)	
	10月	開館15周年記念イベント第2弾(10/7～2/25)開館15周年記念特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」(10/7～12/3：58日間：11,436人)	
	12月	開館15周年記念特別展「アクア・キングダム～スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち～」(12/23～2/25：61日間：37,227人)	
	平成 30(2018)年	3月	特別展「Bones～骨、ほね、ホネ～」(3/17～5/13：58日間：37,000人)
		7月	特別展「へんてこモンスター」(7/14～9/24：73日間：119,141人)
10月		特別展「食のたび～箸と和食の文化史～」(10/20～12/9：51日間：9,793人) ※中国旅順博物館企画の第2回東アジア友好博物館巡回展「箸と生活-中日韓の箸の文化」を拡大	
11月		東田ミュージアムパーク食の祭典2018(11/17～18)	
12月		特別展「世界遺産のまち北九州と明治日本の産業革命遺産」(12/22～2/11：48日間：22,099人)	
平成 31(2019)年 令和元(2019)年	3月	特別展「獣は毛もの～ふわふわ、ごわごわ、すべすべ、ちくちく～」(3/16～5/12：58日間：47,859人)	
	7月	特別展「探検！両生類・は虫類の世界」(7/13～9/16：66日間：119,013人) 入館者700万人達成！(7/10)	
	10月	特別展「九州発！棟方志功の旅-彫り起こされた足跡と交流-」(10/12～12/1：51日間：8,456人)	
令和 2(2020)年	12月	特別展「コレクション大集合 モノが語る私たちの暮らしと自然」(12/21～2/11：49日間：23,154人)	
	2月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(2/28～5/18)	
	4月	伊澤雅子館長が就任(4/1)	
	5月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため平日のみの限定開館(5/19～5/29) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(5/30～6/21)	
	6月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため平日のみの限定開館(6/22～8/7)	
令和 3(2021)年	8月	Web事前予約システム導入(8/3～)	
	1月	特別展「名刀「博多藤四郎の輝き」—戦国を生き抜いた武士の絆—」(1/2～2/14：44日間：6,718人)	
	3月	特別展「わたしたち『収蔵庫』にいるんです—あつめる まもる つなげる—」(3/6～4/4：30日間：17,503人)	
	4月	北九州ミュージアムパーク連携企画展「北九州・産業都市の軌跡」(4/29～5/30、内32日間新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館(5/12～5/30)：16,289人)	
	7月	特別展「THE モンスター展II」(7/17～9/26：76日間：57,731人)	

令和 4(2022)年	10月	特別展「鉄の都のものがたり～釜石と八幡～」 (10/16～11/28 : 44 日間 : 6,845 人)
	1月	特別展「博物館のお正月 2022～開館 20 周年 Year の幕開け～」 (1/2～1/31 : 30 日間)
	3月	特別展「まるごとウマ展～ウマと人のキズナ～」 (3/19～5/8 : 51 日間 : 20,516 人)
	7月	開館 20 周年記念特別展「昆虫博 2022」 (7/16～9/4 : 51 日間 : 81,554 人)
	10月	開館 20 周年記念特別展「トイレのうんちく展」 (10/1～11/23 : 54 日間 : 27,193 人) 入館者 800 万人達成！ (10/19)
令和 5(2023)年	11月	開館 20 周年記念式典 (11/3)
	12月	開館 20 周年記念特別展「うなぎの旅展」 (12/10～1/29 : 48 日間 : 10,788 人)
	2月	リニューアル工事休館 (2/1～3/3)
	3月	リニューアル記念式典 (3/3) リニューアルオープン (3/4) 開館 20 周年記念特別展「世界の野生ネコ科展」 (3/4～5/7 : 65 日間 : 55,768 人)
	7月	特別展「恋するいきもの展」 (7/15～9/18 : 66 日間 : 58,286 人)
	10月	特別展「なつかしい暮らしと道具展」 (10/14～12/3 : 51 日間 : 26,006 人)
令和 6(2024)年	12月	リニューアル記念式典 (12/26) 特別展「博物館のお正月 2024～辰～」 (12/26～12/28, 1/2～2/18 : 51 日間)
	3月	特別展「カラーズ～自然の色のふしぎ展～」 (3/16～5/6 : 52 日間 : 37,154 人)

7. 入館者の状況

(人)

年度	大人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年計	累計
14	60,946 (55.1%)	2,677 (2.4%)	29,903 (27.0%)	17,096 (15.5%)	110,622 (100.0%)	162,527
15	148,376 (46.2%)	7,950 (2.5%)	117,407 (36.5%)	47,692 (14.8%)	321,425 (100.0%)	483,952
16	124,591 (41.5%)	9,262 (3.1%)	125,566 (41.8%)	40,644 (13.6%)	300,063 (100.0%)	784,015
17	220,645 (45.6%)	11,699 (2.4%)	173,303 (35.9%)	77,848 (16.1%)	483,495 (100.0%)	1,267,510
18	163,725 (45.2%)	12,630 (3.5%)	137,387 (37.9%)	48,549 (13.4%)	362,291 (100.0%)	1,629,801
19	160,194 (42.2%)	12,771 (3.4%)	147,601 (38.9%)	58,881 (15.5%)	379,447 (100.0%)	2,009,248
20	125,898 (39.0%)	10,487 (3.2%)	131,344 (40.7%)	54,997 (17.1%)	322,726 (100.0%)	2,331,974
21	145,843 (42.5%)	8,151 (2.4%)	124,106 (36.1%)	65,290 (19.0%)	343,390 (100.0%)	2,675,364
22	148,752 (39.6%)	10,516 (2.8%)	137,441 (36.6%)	78,881 (21.0%)	375,590 (100.0%)	3,050,954
23	154,803 (41.2%)	8,933 (2.4%)	134,619 (35.8%)	77,299 (20.6%)	375,654 (100.0%)	3,426,608
24	144,271 (39.0%)	7,267 (2.0%)	143,409 (38.8%)	74,764 (20.2%)	369,711 (100.0%)	3,796,319
25	277,499 (44.6%)	16,837 (2.7%)	191,914 (30.8%)	136,451 (21.9%)	622,701 (100.0%)	4,419,020
26	214,140 (45.1%)	13,880 (2.9%)	150,867 (31.8%)	96,052 (20.2%)	474,939 (100.0%)	4,893,959
27	216,842 (45.9%)	14,645 (3.1%)	141,525 (30.0%)	99,377 (21.0%)	472,389 (100.0%)	5,366,348
28	224,878 (44.3%)	15,445 (3.0%)	144,379 (28.4%)	123,301 (24.3%)	508,003 (100.0%)	5,874,351
29	230,942 (43.4%)	16,879 (3.2%)	142,794 (26.8%)	141,495 (26.6%)	532,110 (100.0%)	6,406,461
30	218,100 (45.1%)	16,591 (3.4%)	126,849 (26.2%)	122,476 (25.3%)	484,016 (100.0%)	6,890,477
R1	205,887 (45.5%)	12,818 (2.8%)	122,164 (27.0%)	111,994 (24.7%)	452,863 (100.0%)	7,343,340
2	67,590 (49.1%)	5,748 (4.2%)	25,374 (18.4%)	39,024 (28.3%)	137,736 (100.0%)	7,481,076
3	114,885 (47.5%)	10,300 (4.3%)	53,034 (21.9%)	63,517 (26.3%)	241,736 (100.0%)	7,722,812
4	185,101 (46.0%)	14,981 (3.7%)	99,650 (24.7%)	103,087 (25.6%)	402,819 (100.0%)	8,125,631
5	202,696 (47.0%)	16,033 (3.7%)	114,470 (26.6%)	98,079 (22.7%)	431,278 (100.0%)	8,556,909

展示リニューアル工事のため休館

平成24年度 12/3～3/22 令和4年度 2/1～3/2

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館

令和元年度 2/28～3/31 令和2年度 4/1～5/18、5/30～6/21は休館。また5/23～8/2は土日祝日を休館。

令和3年度 5/12～6/20は休館。8/10～9/12は常設展のみ休館。

8. 広報・報道実績

(1) 博物館から報道機関（市政記者クラブ）に情報提供した件数

7件

(2) 特別展等関連広報・報道状況記録

展覧会名	新聞	雑誌等	テレビ	ラジオ	インターネット
春の特別展「世界の野生ネコ科展」 ※令和5年4月1日～5月7日まで	131	11	106	17	8
夏の特別展「恋するいきもの展」	244	12	53	24	11
秋の特別展「なつかしい暮らしと 道具展」	127	9	0	0	7
春の特別展「カラーズ～自然の色 のふしぎ展」※令和6年3月31日まで	63	10	23	23	7
合 計	565	42	182	64	33

その他（特別展以外）

ア) 新聞

4紙 17件

「新種記載したゴトウタゴガエル（両生類）について」

「大迫力の恐竜たち」

イ) 雑誌等

26誌 30件

「地球の歩き方」、「メルマガ」、「ぐらんざ」

ウ) テレビ

7社 21件

「ZIP!」（日本テレビ）、「ダーウィンが来た!」（NHK）

エ) ラジオ

3社 14件

「エアステーションヒビキ」、「KBC ラジオ フリーダム ODA。」

オ) インターネット

19社 24件

「じゃらんニュース」（株式会社リクルート）、「るるぶ Web」（JTB パブリッシング）

(3) ホームページアクセス数

トップページ 595,948 件 全ページ 1,947,956 件

(4) SNS (X (旧 twitter)、Facebook、Instagram、YouTube)

SNS	アカウント名	投稿件数	フォロワー数
Twitter	北九州市立いのちのたび博物館	126	10,456
	@KMNH_special (特別展の公式アカウント)	179	583
Facebook	北九州市立いのちのたび博物館	237	3,986
Instagram	北九州市立いのちのたび博物館【公式】	223	2,400
YouTube	北九州市立いのちのたび博物館	6	699

(令和6年4月8日現在)

9. 市制 60 周年記念事業

開館 20 周年を記念して実施した前年度のリニューアル第 1 弾に引き続き、令和 5 年度は市制 60 周年記念事業として常設展示のリニューアル第 2 弾を実施した。12 月 26 日にリニューアル記念式典を行った。

(1) 自然史ゾーン リニューアル

自然史ゾーンのリニューアルでは、これまでに収集した標本をできるだけ多く常設展示すべく、リニューアルを実施した。自然発見館に北九州の自然について最新の情報を伝えるコーナーを新設するとともに、それぞれテーマを設定したぽけっとミュージアム 2 か所の展示を改修し、実物資料の展示を大幅に増量した。主な展示エリアごとに概要を報告する。

自然発見館：エントランスに設置されていた地形模型を撤去し、円環状の展示区画「ネイチャーサークル」を新設、現在の北九州の自然について様々な視点から解説するコーナーとした。特に「生物多様性」をキーワードとして、市内の生物相の特色や、それらが直面している危機、市民による多様性保全の取り組みなどを、実物資料を通して紹介している。



ネイチャーサークル

ぽけっとミュージアム：ぽけっとミュージアム No.3 の「大連市との交流」展示を、脊椎動物の体を支える骨格について、多様な種の標本を見て比べることができる「骨 Bones」展示に変更した。また、ぽけっとミュージアム No.8 の「地震のしくみ」は、大正から昭和初期にかけて学校における博物学や理科の授業で用いられていた様々な自然史標本を紹介する「理科室と博物学」という展示に変更した。これら 2 つのスペースは多くの標本の収蔵状況についても紹介しながら展示する「収蔵展示」とした。

(江頭幸士郎・中西希)



ぽけっとミュージアム No.3 : 骨 Bones



ぽけっとミュージアム No.8 : 理科室と博物学

(2) 歴史ゾーンリニューアル

ヒストリーアートギャラリーの新設：

3階歴史ゾーンのカルチャーモールは、来館者が自然史ゾーンから移動してきて初めて目にするゾーンであり、歴史コーナーの「顔」ともいうべき場所である。これまでは主に北九州の祭りを紹介し、適宜ミニ展示や体験コーナーを設置するなどして活用してきた。

今回のリニューアルでは、増加する訪日外国人客や歴史に関心が薄い来館者の心をつかむような、ビジュアルに特化した展示を企図して、新しい展示コーナー「ヒストリーアートギャラリー」をカルチャーモールに設置した。

ここでは北九州の歴史をビジュアルに感じられる空間づくりとして、天井近くまでの大きな棚を設置し、天井付近には小倉織反物をタペストリー風に吊り下げ、床には小倉織を意識したカーペットを新たに設置した。また個別に調光可能なLEDのスポット照明を棚ごとに設置し、歴史資料のもつさまざまな美しさを照らすことができるような装置とした。また、合わせて祭りの演出についても色味と音・光による演出の回数を抑え、落ち着いて展示資料のもつ美しさに没入できるような空間とした。加えて資料の解説は既存アプリ「ポケット学芸員」に掲示することで、展示キャプションはできるだけ名称のみにとどめた。

初回の展示資料は、下記のとおりである。

色絵旭日鳳凰花鳥大皿、二升徳利・徳利、禮記、手裏剣、孫次胤、円筒埴輪、硯、柄鏡、寛永通宝、水牛脇立桃形兜、銅鐸レプリカ、土鈴、田香焼花入れ、置きランプ、磨製石斧、簪・櫛・笄、陣羽織・毛沓・払子、イイダコつり、びく、ガラス浮き・延縄、小倉織反物・道具類、具足類、レール、角樽、着物、色絵吉祥文皿、青絵布袋大黒天大皿。

なお、一部に脆弱な資料の展示もおこなうことから、適宜展示替えしながら運用している。学芸員がフレキシブルに展示を変えられる構造にしたことで、常設展示の自由度が向上した。リニューアルオープン後は記念写真を撮る来館者の姿が良く見かけられるようになり、一定の効果ができていると考えている。

(宮元香織)



ヒストリーアートギャラリー

北九州市のあゆみコーナーの新設：

昭和38年（1963）2月10日に門司・小倉・若松・八幡・戸畑5市が合併して、北九州市が誕生して、今年で市制60周年を迎えたことを機に、新しく「北九州市のあゆみコーナー」を設置した。ここでは、動画や画像資料、統計や地図などを使って、北九州市のこれまでのあゆみを振り返ることができる。

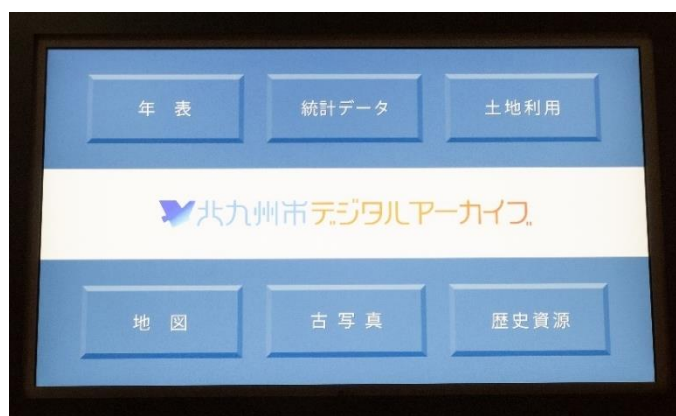
壁面では、北九州市が明治時代以降に産業都市として発展した歴史と、北九州市誕生後、公害を克服し、環境未来都市からSDGs未来都市へ変化して現在に至るあゆみを振り返った。あわせて、北九州市が誕生した1963年から2023年までを一目でわかる年表にまとめた。

また、コーナー中央には、来館者が自由に触ることのできるタッチパネルディスプレイ「北九州市デジタルアーカイブ」を2台設置した。北九州市の年表、統計データ、土地利用、地図、古写真、歴史資源の6つの選択肢を立てて、より詳しい情報にアクセスできる仕組みとした。あわせて北九州市の姉妹都市や友好都市を紹介する展示ケースも設置した。

（日比野利信）



コーナー全景



タッチパネル検索初期画面

10. 特別展

(1) 世界の野生ネコ科展

期 間：令和5年3月4日（土）～令和5年5月7日（日）

65日間（前年度からの継続事業）

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人700円（団体560円）、高・大生500円（同400円）、
小・中生400円（同320円）、未就学児無料

観覧者数：55,768人（全会期、令和5年4月1日～5月7日は32,767人）

担当学芸員：中西 希・中原 亨

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社、読売新聞社

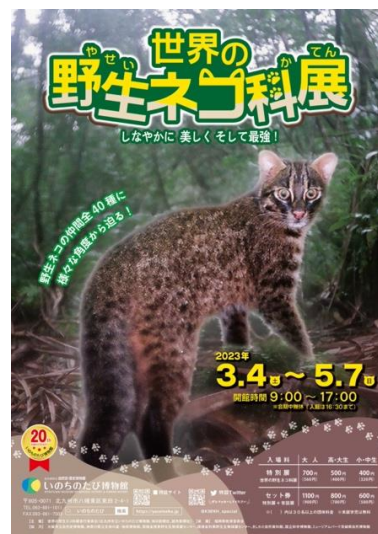
協 賛：福岡県教育委員会

協 力：大阪市立自然史博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、
環境省西表野生生物保護センター、環境省対馬野生生物保護センター、
きしわだ自然資料館、国立科学博物館、ミュージアムパーク茨城自然博物館

概 要

完全に肉食に特化し陸上生態系の頂点に位置する「ネコ科」に焦点をあて、世界中の様々な環境に適応したネコ科の多様性や生態系の頂点に位置する高次捕食者の重要性を学べる特別展である。ネコ科動物の多様性を学びながら、ネコ科を中心として様々な生物がつながり合っていることを知る機会を提供した。また、日本に生息するイリオモテヤマネコとツシマヤマネコの剥製と映像を展示し、希少種保護に対する理解も深められるように展示を行った。

1. 起源と進化：ネコ科の起源と進化を化石と復元模型を用いて解説し、現生のネコ科の仲間（食肉目）の多様性について多数の剥製を用いて紹介した。
2. 機能と特徴：超肉食獣であるネコ科の身体の機能と特徴を、骨格標本とイラストパネルを用いて紹介した。
3. 多様性：現生ネコ科40種の多様性を剥製、骨格標本、画像を、南北アメリカ、ユーラシア・東南アジア、アフリカの3つの大陸に分け、島状展示ステージに分けて展示、解説した。
4. コミュニケーションと社会：ほとんどの種が単独性であるネコ科のコミュニケーション方法と、子育て、社会性について、剥製、骨格、映像を用いて解説した。ネコ科の重要なコミュニケーションツールであるマーキング臭を嗅げるコーナーを設置し、イリオモテヤマネコの匂いを体感できるように工夫した。
5. 日本のヤマネコ：かつて日本に生息していたトラとオオヤマネコについて化石を用い紹介した。また、現在の日本に生息するイリオモテヤマネコとツシマヤマネコが、西表島と対馬の各島において生態系の頂点捕食者としてどのような暮らしをしているのかを、ヤマネコに食べられる動物の剥製、液浸、PEG 標本を多数展示することにより紹介した。このほか、フィールドにおける調査について紹介し、食性を調べる糞内容物分析クイズと、自動撮影カメラで撮影されたイリオモテヤマネコの模様を用いた個体識別クイズのコーナーを設置した。加えて、イリオモテヤマネコとツシマヤマネコの毛皮を触り、亜熱帯と温帯に生息するヤマネコの毛皮の違いを体験できるコーナーを設置した。
6. 絶滅に瀕するネコ科：全ての野生ネコ科が絶滅危惧種に指定されており、スナドリネコ、ヒョウ、



ユキヒョウ、イリオモテヤマネコ、ツシマヤマネコの保護活動について紹介した。

主な展示標本

野生ネコ科最大のシベリアトラの剥製と東南アジア産トラの剥製を比較展示した。マーブルキャットの特徴を表した木を降りる姿勢の剥製を日本初公開した。イリオモテヤマネコとツシマヤマネコの剥製および骨格標本4体の同時展示は国内初であった。

関連事業

関連イベントとしてナイトミュージアム（3月25日）を行った。

（中西 希）



獲物を襲う姿勢のトラの剥製



初公開のマーブルキャットの剥製



ネコ科最大のシベリアトラ（左）と
東南アジア産トラの剥製（右）



触れるツシマヤマネコの毛皮



イリオモテヤマネコの剥製と骨格標本



ツシマヤマネコの剥製と骨格標本

(2) 恋するいきもの展

期 間：令和5年7月15日（土）～令和5年9月18日（月・祝）
66日間

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人 800 円（団体 640 円）、高・大生 500 円（同 400 円）、
小・中生 400 円（同 320 円）、未就学児無料

観覧者数：58,286 人

担当学芸員：竹下文雄・中原 亨

主 催：北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社、RKB 毎日放送

後 援：福岡県教育委員会

協 力：国立科学博物館、千葉県立中央博物館、山階鳥類研究所、我孫子市鳥の博物館

概 要

動物の求愛や配偶者をめぐる繁殖行動・形態に着目した展示を行った。動物の多様な形や不思議な行動には、それぞれの種の繁殖戦略と関連するものが多数存在する。そうした特徴がどのように繁殖に用いられ、また適応的であるのか、分かりやすく興味を持って学んでいただけるように、特徴的な形態形質をもつ哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・魚類・昆虫・甲殻類・化石など、複数の分類群に跨る延べ200点以上の剥製、標本、生体を展示した。また動物の興味深い行動をより分かりやすく来館者に知っていただくために、映像展示を多数展示するとともに、一部は音声と同期して映像展示を行った。

主な展示標本

- ・アイキャッチ（オープンギャラリー）：ゴリラ（国立科学博物館より借用）、ムフロン、ハクセンシオマネキ拡大模型、ニジキジ、アンテロープなど
- ・オスとメスの違い：トド（国立科学博物館より借用）、タヌキ、マガモなど
- ・オスどうしの争い：ライオン、キリン、サケ、タカアシガニ、カブトムシ類、クワガタ類、イッカク雌雄骨格標本（千葉県立中央博物館より借用）
- ・メスによる配偶者選択：クジャク、シュモクバエ、セイキチョウ、シオマネキ類、ロウソクギンポ、ペンギンなど
- ・その他興味深い繁殖生態について：セアカゴケグモ、オオアナコンダ、ホタル類、シリアゲムシ、タマンギ、タツノオトシゴ、アメフラシ、コモドオオトカゲ、ヒメイカ、クチキゴキブリ、クリエンティエラアンチフリガ（日本最古の貝形虫化石）
- ・生体展示：カブトムシ類、クワガタ類、ヤドクガエル類、シクリッド類など

関連事業

関連イベントとして「ドキドキがとまら night ミュージアム」（7月28日、8月25日）を開催した。

（竹下文雄）





ゴリラ他剥製



ハクセンシオマネキ拡大模型



トド剥製



イッカク雌雄交連骨格標本



クジャク雌雄剥製



ヘラレスオオカブト (生体展示)

(3) 秋の特別展「なつかしい暮らしと道具展」

期 間：令和5年10月14日（土）～令和5年12月3日（日）
51日間

会 場：ギャラリー館

入 場 料：大人700円、高・大生500円、小・中生300円、
常設展とのセット券は1,100円、800円、300円、
未就学児および小中学校団体は無料

観覧者数：26,006人

担当学芸員：日比野利信・上野晶子・中西義昌

主 催：なつかしい暮らしと道具展実行委員会（北九州市立いのちの
たび博物館、東田ミュージアムパーク実行委員会、毎日
新聞社）

後 援：福岡県教育委員会

協 力：一般社団法人豊前小倉織研究会、九州歴史資料館、豊田市生涯活躍部博物館準備課、
林久美子（SILK LINE）

概 要

北九州市が誕生した昭和38年（1963）、高度経済成長の真ただ中の時期に焦点を当て、それまでに
培われてきた暮らしのあり方と、家電製品などが登場し、急激に暮らしが変化していく様子の両方を視
野に入れて、道具と暮らしのうつりかわりを体験的・体感的に学ぶ展覧会。それにより、私たちが追求
する「持続可能な暮らし」がどのようなものか考える機会とした。

学校教育と連動して、暮らしの道具のうつりかわりを紹介する展覧会が全国各地で開かれているなか
で、今回の特別展は比較的大規模なものであり、特に北九州市が誕生した昭和38年、高度経済成長の
ピークで、電化製品が急速に普及して暮らしが大きく変化していく時代に焦点を当てた点に大きな特徴
がある。写真や新聞資料を組み合わせ、電化製品の普及率のデータを示すなどにより、暮らしの変化を
浮き彫りにした。加えて、自然を巧みに利用し、手間をかけ、何度も再利用するなど、昔の暮らしの良
い点を見直すことにより「持続可能な暮らし」を実現していくための手がかりを追求した。様々な道具
の体験コーナーや蚕の飼育展示は好評であった。「暮らしと道具」に関わる展覧会の方法や可能性を探
ることができた。

展示構成は以下のとおり。

1. 暮らしと道具のうつりかわり

私たちの暮らしの基本である衣・食・住の道具を集め、一つ一つの道具の工夫、道具を使った暮らし、
電化製品の登場と暮らしの変化について跡付けた。

食事の道具（水を使う、火を使う、貯蔵する、調理する、食事する）

住まいの道具（照明、収納、虫除け、電話、テレビ・ラジオ）

衣類の道具（洗濯、アイロン、裁縫、季節の工夫）

2. 北九州市誕生の時代と暮らし

北九州市が誕生した60年前の昭和38年（1963）にスポットを当てて、木造和風家屋の居室と台所の
暮らしを再現し、新旧の暮らしが共存し、その後大きく変化していく暮らしを体感できるように
した。合わせて、同年の新聞記事（毎日新聞）を精選して紹介し、当時の世相についても紹介した。

3. 布にみる持続可能な暮らし

木綿と絹を中心に、糸を取り、布を織り、着物を仕立て、修理しつつ大切に使い続ける暮らしのあ



り方を「持続可能な暮らし」の一例として紹介した。会期前半には蚕の飼育展示もおこなった。

4. これからの暮らし

省資源・循環型の「持続可能な暮らし」の一例として、北九州市エコタウン事業のなかのペットボトルや古着のリサイクル事業と、「誰一人取り残されない社会」実現に向けた福祉用具プラザ北九州が提供する様々な自助具を紹介した。

5. 展示体験コーナー

出入口前に枡、上皿天秤、手回し計算機の「はかる」道具、英文タイプライター、黒電話、がんどろ、野球盤、バネ箸（自助具）を体験できるコーナーを設置した。

関連事業

- ・開会式：10月13日（金）
 - ・講演会：10月14日（土）（博物館歴史友の会と共催）
吉留徹氏（夏目漱石内坪井旧居館長） 「民具の可能性」
 - ・ギャラリートーク：10月22日（日）、28日（土）、11月5日（日）、11日（土）、19日（日）、25日（土）、12月3日（日）13:30～30分程度
 - ・ハロウィンナイトミュージアム：10月28日（土）18:00～20:00
 - ・布のギャラリートーク&ワークショップ
 - ①「繭からどうやって糸になるの？ 見てみよう・やってみよう座繰りの実演」
11月3日（金・祝） 10:30～11:30、13:30～14:30
林久美子氏（SILK LINE シルクキュレーター）
絹に関する道具に特化したギャラリートークと、蚕繭から絹糸を紡ぐ座繰りの実演と体験
 - ②「ハギレでオリジナルのしおりを作ろう！」
11月23日（木・祝） 13:00～15:00
大和恵子氏（豊前小倉織研究会代表）
絹に関する道具に特化したギャラリートークおよび綿製品のハギレでしおりを作る体験
- （日比野利信）



暮らしと道具のうつりかわり



昭和38年ごろの暮らしの再現



蚕（飼育展示を含む）と絹



暮らしの道具体験コーナー



座繰りの実演と体験

(4) 冬の特別展「博物館のお正月 2024～辰～」

期 間：令和5年12月26日（火）～令和6年2月18日（日）

51日間

※令和5年12月29日（金）～31日（日）、

令和6年1月1日（月・祝）は休館

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

観覧者数：47,180人（※期間中の常設展全入場者数）

担当学芸員：大橋智之・富岡優子

主 催：北九州市立いのちのたび博物館

概 要

令和6年の干支「辰」にちなみ、恐“竜”としてマジュンガサウルスや「リュウ」、「タツ」と名前のつく生きもの、龍や辰をモチーフにした絵画や工芸品などを展示した。併せて縁起が良いとされるツルやカメなどの動物、またこれらが主題になった美術工芸品ほか、お正月に関する様々な資料を展示、紹介した。

特別展の入口には、アイキャッチとしてマジュンガサウルスの骨格標本とプロバクトロサウルスを展示した。お正月の雰囲気、和のイメージを出すために標本の下に畳を敷き、マジュンガサウルスの背景には福岡県立八幡中央高等学校書道部による干支の「龍」の作品を展示した。学生の作品紹介の場ともなり博学連携の一環になったともいえる。来館者には撮影スポットとして好評であった。

干支の辰のコーナーでは、自然史系標本では名前に「辰・龍・竜」が付く生きものを紹介するコーナーを設け、想像上の動物でありながらも、そのイメージが実際の生きもの名前に反映されている実例、また「恐竜」と名前の付いた由来などを紹介した。また歴史系の資料では龍をモチーフにした鏡、絵画、土鈴など様々な作品を展示した。

お正月の紹介コーナーでは、総合博物館の特性を生かし、初夢に見ると縁起が良いという富士山・鷹・茄子また縁起がよい動物である鶴・亀・鹿について絵画・着物・はく製で紹介するコーナーを設けた。また秋の特別展で北九州市制60周年に合わせ昭和38年頃の一般的な木造和風家屋の居間と台所を再現した展示物を活かし、当時の炬燵や鏡餅、また福笑いなどを置き、当時のお正月の雰囲気を味わえるコーナーとした。昔の玩具で遊んだり、炬燵に入って写真撮影を行うなど来館者には人気であった。その他、お正月に関連する様々な館蔵資料を展示しお正月に関する解説をそれぞれ行った。

さらに令和6年度に開催予定の4件の特別展について、予告展示を行った。

関連事業

- ・開会式（12月26日）

常設展リニューアル記念式典と共におこなった。八幡中央高等学校書道部を招待した。

- ・クイズラリー（1月2日）

特別展会場および常設展リニューアル箇所の計6ヶ所にクイズのパネルを設置。参加者は各クイズを解き、受付に合言葉を口頭で伝えることで景品（博物館オリジナルグッズ）がもらえるクイズラリーを実施した。先着800名にクイズラリーマップを配布し、博物館オリジナルグッズを配布した。

（富岡優子）

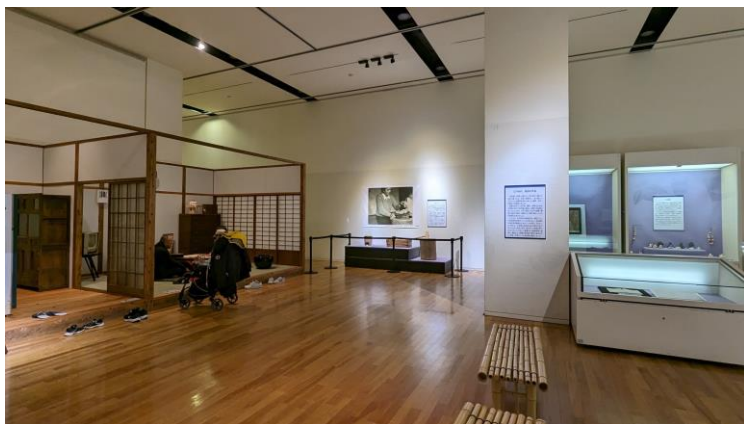




マジュンガサウルスと八幡中央高等学校書道部による「龍」(左)、プロバクトロサウルス(右)



おめでたい動物、ツル・カメ・シカの標本と絵画作品



冬仕様の昭和 38 年頃の居室の再現、お正月関連資料の展示



令和 6 年度の特別展の紹介コーナー

(5) カラーズ～自然の色のふしぎ展～

期 間：令和6年3月16日（土）～令和6年5月6日（月）

52日間（次年度への継続事業）

会 場：ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料：大人 700 円（団体 560 円）、高・大生 500 円（同 400 円）、小・中生 400 円（同 320 円）、未就学児無料

観覧者数：37,154 人（全会期、令和6年3月31日までは13,486人）

担当学芸員：中原 亨・真鍋 徹

主 催：北九州市立いのちのたび博物館

後 援：福岡県教育委員会

特別協力：毎日新聞社、九州朝日放送

協 力：きしわだ自然資料館、兵庫県立人と自然の博物館、山口県立山口博物館、綾の手紬染織工房、佐藤望、田中啓太、徳江紀穂子、中村豊、廣田峻、福原達人、森本元、渡部哲也、Alfredo Attisano（敬称略）



概 要

自然界の色、特に多彩な生きものの色に注目した特別展。様々な標本とともに生きものの色を紹介し、なぜその色をまとっているのかという謎に対し、生存・繁殖戦略や進化の視点から迫った。また、人間がどのように自然の色を生活に取り入れてきたのかについても紹介した。会場内には、「なぜ？」と問いかけるパネルをたくさん用意し、色にまつわる謎やふしぎについて、考える機会を提供した。

1. オープンギャラリーを使用した色彩別展示：アイキャッチとして展示スペースを色彩別に用意し、紫・藍・青・緑・黄・橙・赤・白・黒・白黒模様・キラキラ・色とりどりの自然物をそれぞれまとめて展示した。
2. 第1章「生きものの色」：生きものの色の発色に注目し、色素由来の発色と構造色による発色の仕組みと、それぞれの仕組みによる色を持つ生きものの標本を紹介した。また、色彩変異に注目し、色彩の個体差が生じる理由やバリエーションの広さについて、標本を通じて解説した。さらに、人為的に選抜されて生じた品種についても紹介した。
3. 第2章「生きるための色」：長い時間をかけて生じた生きものの色彩の進化に注目し、その背景を考える展示を行った。特に、昆虫や鳥類の擬態、有毒生物の警告色、魚類の婚姻色、鳥類の生殖羽と非生殖羽、鳥類の性的二型、動植物間相互作用で生じた花や果実の色の進化といったトピックに関わる標本を集めて展示した。また、人間と他の生物の色覚のちがいなどにも触れて解説した。
4. 第3章「人の暮らしと自然の色」：人間が試行錯誤して暮らしの中に取り入れてきた色について紹介した。特に顔料や染料、食用色素については、原料と加工品を並べて展示した。構造色を利用した工芸品（螺鈿細工）やお土産品も紹介した。また、日本の伝統色のもととなった自然物を、その色見本とともに展示した。

主な展示標本

展示標本の合計点数は約 450 点に達した。オープンギャラリーの色彩別展示では、構造色の美しいニジキジヤイロチョウの剥製、アカメアマガエル・ハクセンシオマネキの拡大模型、ラフレシアのレプリカ、ヒクイドリヤコブハクチョウの剥製、色とりどりのウミウシ類の液浸標本など、目を引きやすい標本をピックアップして展示した。第1章「生きものの色」では、色素由来の色を持つハシブトガラス、フラミンゴ類、ショウジョウトキの剥製、構造色をもつモルフォチョウ類やプラチナコガネ類の標本、

黄色と黒色の 2 タイプが存在するジャガーの剥製、突然変異によって生じるトラやイノシシの白変個体の剥製、色彩に地理的変異のあるヤマドリの剥製やオオルリオサムシの標本、ニワトリの品種などを紹介した。第 2 章「生きるための色」では、翼に口に似た黄色い色のパッチを持ち、宿主（仮親）を欺いて食べ物を多く手に入れる托卵鳥ジュウイチのヒナの剥製、宿主の卵に擬態したカッコウ類の卵標本、性的二型の大きなカモ類やオオハナインコの剥製、貝紫染めや草木染めの糸、鴉色や狐色のもととなったトキやホンDIGツネの剥製などを展示した。また、生体展示として色彩の異なる 3 種のヤドクガエル、アオダイショウの通常色個体とアルビノ個体、紫外線蛍光を示すクロスサンカクヘビを展示した。

関連事業

関連イベントとして「お花見ナイトミュージアム」（3月30日）を行った。

（中原 亨）



紫色・藍色・青色・緑色を代表する生きものの展示



黄色・橙色・赤色を代表する生きものの展示



生きものの色彩変異に関する展示



カッコウ類の托卵と擬態に関する展示



鳥類の性的二型に関する展示



貝紫染めの糸と原料となったアカニシの標本

1 1. 企画展・その他展示

(1) 「北九州市制施行 60 周年記念 北九州市の誕生とその時代」

期 間：令和 5 年 3 月 4 日（土）～令和 5 年 6 月 18 日（日）
（前年度からの継続事業）

会 場：ぼけっとミュージアム No.9・10、東アジア交流コーナー

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：日比野利信

協 力：北九州市立文書館

概 要

北九州市は関門海峡に臨むとともに、九州の玄関口に位置し、古来水陸交通の要所であった。明治以降の北九州地域は筑豊の石炭の集散地として期待され、鉄道や港湾が重点的に整備された。そのような地勢と基盤整備を背景として官営製鐵所が八幡に建設された。また様々な工場が立地して、この地域は「石炭と鉄がつくった工業都市」として急速に発展した。門司・小倉・若松・八幡・戸畑 5 市が誕生し、独自の発展を遂げながら一体感を増して、「北九州工業地帯」と呼ばれた。昭和 38（1963）年 2 月 10 日、五市は合併して北九州市が誕生し、4 月 1 日に九州初の政令指定都市となった。その後の北九州市は時代とともに大きな変化を遂げつつ、今年市制 60 周年を迎えた。本展ではこの節目の年に、北九州五市の戦後復興や高度経済成長、北九州市誕生の経緯や 60 年の歩みについて、時代背景と合わせて紹介した。展示構成は以下の通り。

1 昭和戦後の北九州五市（No.9）

昭和 28 年大水害、公営競技（競輪・競艇）、博覧会、めかり菊大人形、若戸大橋、関門橋、昭和戦後の旧 5 市の地図など

2 五市合併と北九州市の誕生（No.10）

九州電気軌道（西鉄北九州線）、北九州五市連市計画（都市計画）、北九州観光協会、合併の経緯、新市名「北九州市」の決定、東京オリンピック（組織委員会会長・安川第五郎）

3 北九州市のあゆみ（No.10）

市制 50 周年を前に募集した写真から 56 枚を選んで投映

4 北九州市の姉妹都市・友好都市（東アジア交流コーナー）

タコマ市（アメリカ合衆国）、ノーフォーク市（同）、大連市（中華人民共和国）、仁川広域市（大韓民国）、ハイフォン（ベトナム社会主義共和国）、プノンペン（カンボジア王国）

（日比野利信）



ぼけっとミュージアム No.9 展示風景



ぼけっとミュージアム No.10 展示風景

(2) 「白洲灯台 150 周年記念 岩松助左衛門と白洲灯台」

期 間：令和 5 年 7 月 1 日（土）～令和 5 年 9 月 3 日（日）

会 場：ぽけっとミュージアム No.9・10

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：守友 隆（No.9）・日比野利信（No.10）

共 催：海上保安庁第七管区若松海上保安部

概 要

小倉北区藍島の南西の岩礁に建てられた白洲灯台が、明治 6 年（1873）に点灯を開始して 150 年を迎えることを記念し、企画・開催した。白洲灯台は、豊前國小倉藩（小笠原家）領の長浜浦庄屋を務めた岩松助左衛門が建設を発意し、小倉藩・長州藩（毛利家）・日田県（明治政府直轄）から三度にわたって許可を得て、私財をなげうち奔走したが、実現には至らなかった。その志は明治政府に引き継がれ、灯台は完成した。

本展では、まず岩松助左衛門が貫いた志と活動、それを継承し、事績を顕彰してきた人びとの活動について紹介し、同灯台の歴史的意義を明らかにした。合わせて、白洲灯台と同時期に建設された関門海峡周辺の灯台とその役割について紹介した。

展示構成は以下の通り。

第 1 章 岩松助左衛門と白洲灯台（No.9）

- (1) 航路としての小倉・若松沖と関門海峡、(2) 岩松助左衛門の灯台建設の志
- (3) 受け継がれる助左衛門の志、(4) 伝えられる助左衛門の志

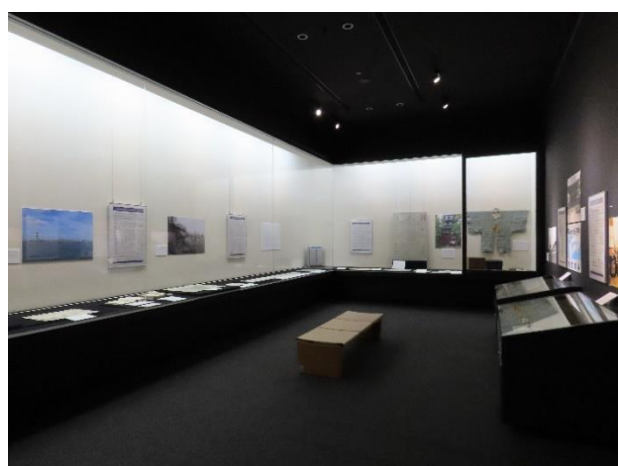
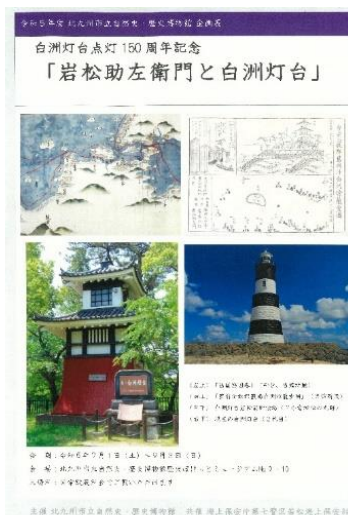
第 2 章 関門海峡周辺の灯台と役割（No.10）

- (1) 航路標識業務、(2) 灯台の光源とレンズ、(3) 気象観測業務、(4) 灯台業務用船

岩松家資料や灯台関連の器具類（若松海上保安部提供）など 65 点を展示した。また、展示解説シートを作成・配布した。さらに、関連イベントとして、令和 5 年 7 月 30 日（日）に「白洲灯台フェス in 博物館」を開催し、午前・午後の 2 回、展示会場で担当学芸員による展示解説会（ギャラリートークや最後の灯台守へのインタビューなどを行った）。

なお、本展については、公益社団法人燈光会発行の『燈光』第 68 巻第 6 号（2023 年 11 月）において概要を紹介した。

（日比野利信・守友 隆）



ぽけっとミュージアム No.9 展示風景



ぽけっとミュージアム No.10 展示風景

(3) 「小笠原騒動—小倉藩小笠原家と狐—」

期 間：令和5年9月9日（土）～令和5年12月10日（日）

会 場：ぼけっとミュージアム No.9・10

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：守友 隆

概 要

史実の小笠原騒動は、小笠原小倉藩 5代藩主忠苗の時代、筆頭家老の犬甘兵庫（知寛）の一派と一門家老の小笠原帯刀（長植）の一派が対立した御家騒動である。結果、兵庫は失脚、藩主忠苗も隠居に追い込まれた。この騒動を戯曲化したのが「小笠原騒動」である。6代藩主忠固の時代の御家騒動を「白黒騒動」と呼ぶのに対し、この御家騒動を小笠原騒動と呼ぶ。

本展では、芝居の登場人物とそのモデルとなった人物を比較検討、さらに芝居に登場し重要な役割を果たす狐にまつわる伝承などについても考察することで、芝居と史実の両面から小笠原騒動の真相と戯曲化の過程に迫った。展示の構成は以下の通り。

第1章 史実の小笠原騒動に迫る！（No.9）

- (1) 小笠原家とは？ (2) 騒動時の藩主小笠原忠苗
- (3) 犬甘兵庫（知寛）の事蹟 (4) 兵庫の失脚と奸臣のイメージ
- (5) 一門家老の小笠原帯刀（長植） (6) 忠苗隠居と忠徳（忠固）藩主就任
- (7) 史実の小笠原騒動の本質 (8) 2代続いた御家騒動

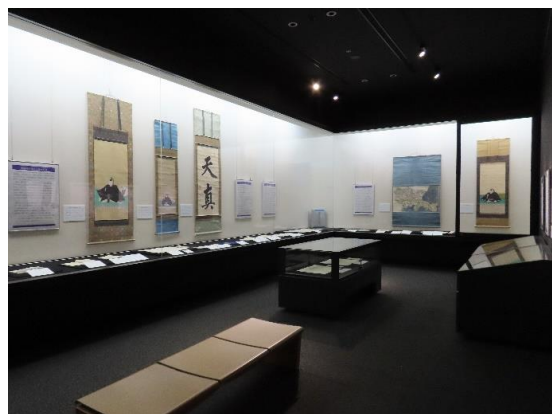
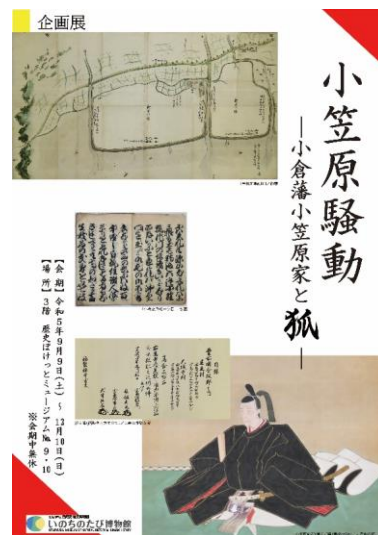
第2章 小笠原騒動の戯曲化（No.10）

- (1) 小倉藩小笠原家と狐① (2) 小倉藩小笠原家と狐② (3) 狐の「あはれ鳴」と「兵庫虫」
- (4) 「小笠原遠江守」のモデル

令和5年11月には、勝山公園で北九州市制60周年記念事業の一環である「平成中村座小倉城公演」が約1か月間開催され、その期間に合わせて企画・開催した。

なお、A4両面16頁の展示解説シート（※展示品リストを含む）を作成し、会場入り口で約700部配布した。他に、会期中に北九州市立年長者研修大学校穴生学舎（11月）、北九州市立小倉南図書館（同月）での出前講座、（公財）北九州観光コンベンション協会主催「第22回北九州観光市民大学」の博物館見学における展示解説を行った。会期終了後にも、北九州市立中央図書館（令和6年1月）、北九州市立生涯学習総合センター（同2月）での出前講座を実施した。

（守友 隆）



ぼけっとミュージアム No.9 展示風景



ぼけっとミュージアム No.10 展示風景

(4) 「なつかしい道具展－暮らしと道具とわたしたち－」

期 間：令和5年12月16日（土）～令和6年3月31日（日）

会 場：ぼけっとミュージアム No.9・10

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：中西義昌

概 要

今からおよそ 60 年前、現在の北九州市が誕生した昭和 38 年（1963 年）当時は、高度経済成長の真っ只中で、電気・水道・ガスや鉄道・道路などの社会基盤の整備が進んだ。また、家電製品、化学繊維品、インスタント食品などが登場するなど、ひとびとの暮らしが大きく変わりつつあった。本企画展では、この時代に撮影された写真や当時の三種の神器（テレビ、洗濯機、冷蔵庫）など衣・食・住の道具の展示を通して、ひとびとの暮らしを紹介した。

展示構成は以下の通り。

1. 北九州市が誕生した頃の暮らし① 〈食と住〉(No.9)

北九州市が誕生した頃はガス・電気・水道や鉄道、道路などの社会基盤整備が進み、食と住に関連した道具や設備が大きく変わった。また、電気炊飯器や電気冷蔵庫など新しい電化製品が加わることで、暮らしは大変便利になった。家事に要する時間が短くなり、自由な時間が増えた分、ラジオを聞き、テレビを見て、音楽を聴き、映画を見て楽しむというような暮らしが広がった。それらの時代を物語る道具や電化製品を展示した。

- 1) かまどからユニットキッチンへ
- 2) 炊飯器（電気釜、ガス炊飯器）の登場、電化製品の広がり
- 3) メディアの発達

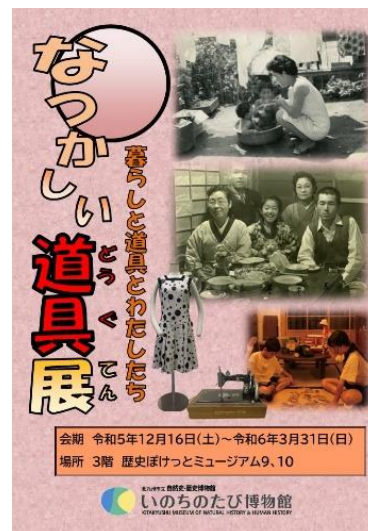
2. 北九州市が誕生した頃の暮らし② 〈市民提供写真から〉スライドショー

3. 北九州市が誕生した頃の暮らし③ 〈衣類の道具と暮らし〉(No.10)

第2次世界大戦以降、都市型の生活の広がりや動きやすさなどの機能が重視され、洋服が普及した。人々は洋裁店で洋服を仕立てて購入する、あるいは自宅で洋服を自作した。足踏みミシンや電気ミシンは戦後の服装の変化＝洋装化を支えた。それらの時代を物語る道具や洋服を中心に展示した。

- 1) 衣服の道具の発達
- 2) 炊飯器（電気釜、ガス炊飯器）の登場、電化製品の広がり

(中西義昌)



ぼけっとミュージアム No.9 展示風景



ぼけっとミュージアム No.10 展示風景

(5) 和歌山県に分布する恐竜化石を含む地層に関する調査成果の展示

期 間：令和5年4月21日（金）
～令和5年9月3日（日）
129日間（燻蒸休館を除く）

会 場：休憩デッキ

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：御前明洋

概 要

和歌山県広川町に分布する白亜紀前期の地層の調査成果について紹介を行った。この調査は、令和4年3月に当館の調査中にワニ類の化石1点が発見されたことがきっかけとなり、同年5月と9月に当館、和歌山県立自然博物館、国立科学博物館で共同発掘を行ったもので、4点の恐竜化石を含む18点の脊椎動物化石が発見された（成果の詳細については、令和5年1月に和歌山県立自然博物館から記者発表が行われている）。発見された標本のうち3点（スピノサウルス類の歯、獣脚類の歯、ワニ類の皮骨板）のレプリカと、比較標本としてアフリカ産スピノサウルスの歯化石を展示した。さらに、産出している恐竜化石の姿をイメージしやすいように、スピノサウルス全身骨格が展示されている隣の休憩デッキで展示を行った。4月から展示を開始したが、7月にこの発掘調査を紹介するテレビ番組「ダーウィンが来た！」（NHK）が放送されたことから、展示期間を長く設定した。

（御前明洋）



(6) オンセンゴマツボ生体展示

期 間：令和4年5月1日（月）
～令和4年6月5日（月）
36日間

会 場：バイオリウム付近

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：蓑島悠介

概 要

オンセンゴマツボは、温泉の温水中に生息する4mmほどの微小な巻き貝で、大分県のみで確認されている。別府市亀川温泉では生息地改変により絶滅したとされていたが、NPO法人北九州・魚部の調査により55年ぶりに再発見された。本展示では、当館とNPO法人北九州・魚部および大分県との協働展示として、オンセンゴマツボの生体展示を行った。小さいものを魅力的に見せる北九州・魚部の展示は来館者にも好評で、複数のメディアに取材していただいた。存在に気づかれにくい大きさの貝の展示を通じ、来館者に北部九州地域の自然史の面白さや奥深さを実感していただくことができた。

（蓑島悠介）



(7) クリスマス展示

期 間：令和5年12月1日（金）
～令和5年12月25日（月）
25日間

会 場：恐竜デッキ

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：中西 希

概 要

クリスマスシーズンである12月にサンタクロースと繋がり深いトナカイの剥製を展示し、アースモールを背景に記念撮影を行えるエリアを造った。



展示標本

トナカイがプレゼントを乗せた木製のそりを引いている様子を、剥製を用いて表現した。LEDのクリスマスイルミネーションと雪に見立てた綿を設置することによりクリスマスの雰囲気を作った。また、来館者がそりに乗り記念撮影を行えるようにした。

(中西 希)

(8) バイオリウム生体展示 昆虫

公 開 日：令和5年12月26日（火）

会 場：バイオリウム

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：蓑島悠介

概 要

バイオリウムの生体展示として、シラホシハナムグリの展示を行った。シラホシハナムグリは体長20mm程度のハナムグリで、博物館周辺では、よく似たシロテンハナムグリと共に、身近な樹液で採集することができる。身近な昆虫にも極めてよく似た二種が存在することを認識していただくことで、自然への理解を深めるきっかけとなるようにしたい。

(蓑島悠介)

(9) バイオリウム生体展示 魚類

公 開 日：令和5年12月26日（火）

会 場：バイオリウム

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：日比野友亮

概 要

バイオリウムの生体展示を一部変更し、ネオケラトダスとチリメンナガクビガメを同一の大型水槽に収容した。この変更に伴い小型水槽ではアメリカウナギの飼育展示を開始した。本種は加工後の蒲焼調整品として広く一般に流通しており、その生きた姿を展示することで興味関心を喚起させることを意図した。

(日比野友亮)

(10) 外来種コーナーの展示変更

公開日：令和6年2月28日（水）
会場：自然発見館ウォールケース
入場料：常設展入場料で観覧可能
担当学芸員：江頭幸士郎

概要

自然発見館のウォールケースには従来より外来種について解説する区画があったが、情報が古くなっていったのと、近隣に開館20周年事業により展示が新設されたことで内容の一部重複などが生じた。そこでそうした重複を排した上で、情報を最新のものに更新しつつ、より北九州市と関連のある事例に焦点を絞った展示となるよう資料と展示解説を変更した。例えば現行法により即した表記への変更や、近年北九州で実際に確認された外来種の実物資料、あるいはその影響を受けた在来種の実物資料などを展示に追加し、外来種を取り巻く現状の理解促進を図った。

(江頭幸士郎)

(11) テーマ館展示替え

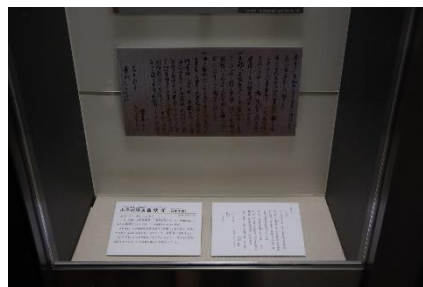
公開日：令和5年4月29日（金）、令和6年2月5日（月）
会場：テーマ館「平安・鎌倉・室町時代の北九州」
入場料：常設展入場料で観覧可能
担当学芸員：佐藤凌成

概要

定期的な展示替えによる資料保護、および来館者に北九州の歴史をわかりやすく伝える目的から、令和5年度は2度にわたって常設展示の更新をおこなった。戦国時代の小倉城についての展示を充実させることを目的に、新たに「法輪山安全禅寺開基公尊像図」（小倉北区安全寺蔵）の複製を製作し、令和5年4月に戦国時代コーナーに追加した。本作品は、戦国時代の小倉城主である高橋鑑種・元種父子とその一族が描かれた唯一の作品である。また、展示替えにともなって新たに解説パネルや史料パネルを追加することで、戦国時代の北九州の様相や位置づけを来館者にわかりやすく、かつ魅力的に伝えるよう努めた。



戦国時代コーナー展示風景



北九州の中世城郭コーナーの新規追加パネル

(佐藤凌成)

(12) 北九州市制 60 周年・北九州国際映画祭開催記念 60 年前の「映画の街・北九州」

期 間：令和 5 年 12 月 7 日（木）～令和 6 年 3 月 31 日（日）

12 月 29 日～1 月 1 日は休館、公開日数 112 日間

会 場：テーマ館「明治時代以降の北九州」

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：日比野利信

協 力：松永文庫

概 要

工業都市として発展した北九州市では数多くの映画館が開業していた。65 年前の昭和 33 年（1958）に北九州 5 市で開業している映画館は 114 館を数えた。同年に公開された「この天の虹」、繰り返し映画化された「花と竜」「無法松の一生」など、北九州を舞台にした作品もある。その後、北九州市は全国に先がけて「北九州フィルム・コミッション」を組織して、国内外の映画やテレビドラマなどの誘致に取り組み、多くの作品が市内で撮影されてきた。令和 5 年 12 月 13 日から 17 日まで、北九州市で初めて国際映画祭が開催された。本展は国際映画祭開催を機に、故・松永武氏が収集し、北九州市に寄贈した多数の映画資料を保存・展示する「松永文庫」（門司区）のご協力を得て、60 年前頃の映画資料を紹介し、「映画の街・北九州」の源流を探った。

（日比野利信）



(13) ヒストリーアートギャラリー展示替え

公 開 日：令和 6 年 2 月 15 日（木）、令和 6 年 2 月 22 日（木）

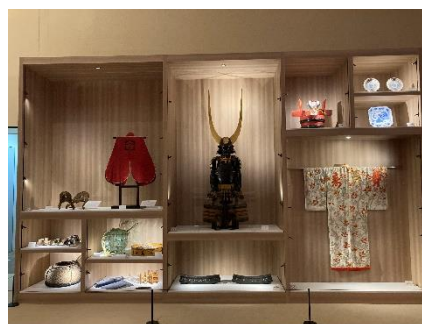
会 場：ヒストリーアートギャラリー

入 場 料：常設展入場料で観覧可能

担当学芸員：上野晶子・守友 隆

概 要

資料保護および様々な作品を来館者に紹介するため、2 度にわたって更新をおこなった。2 月 15 日に「二升徳利・徳利」から「タイプライター」へ、「置きランプ」1 点から「置きランプ」2 点へ、「島村志津摩所用と伝わる陣羽織・毛沓」から「九曜紋緋羅紗陣羽織」「九曜紋入鞍」へ、「着物（堀切辰一コレクション No. 51）」から「着物（堀切辰一コレクション No. 319）」へ展示を更新した。2 月 22 日に「萌黄糸威二枚胴具足」から「鉄鍬韋包菱綴桶側二枚胴具足」へ展示を更新した。



（上野晶子）

(14) イオンモール八幡東店出張展示

期 間：令和5年7月17日（月）～令和5年9月3日（日） 49日間

会 場：イオンモール八幡東店3階渡り通路

観 覧 料：無料

担当学芸員：日比野利信・大橋智之・竹下文雄

概 要

イオンモール八幡東店協力の下、博物館のアピールを目的とした展示をイオンモール八幡東店3階の渡り通路で開催した。ティラノサウルス頭骨レプリカを展示したほか、夏および秋の特別展の告知・広報を目的に、展示ケース2台を用いて、両展示会の関連標本や資料を紹介した。



(日比野利信・大橋智之・竹下文雄)

(15) NCB 街かどギャラリー出張展示

期 間：令和6年3月1日（金）～令和6年6月28日（金）

会 場：NCB 街かどギャラリー（小倉北区鍛冶町1丁目5番1号）

観 覧 料：無料

担 当 者：中原 亨・江頭幸士郎・上野晶子・森 康・濱田流水・
村口瑠望

概 要

西日本シティ銀行協力の下、NCB街かどギャラリーにおいて、「ミニミニいのちのたび博物館 in 小倉」と題し、令和6年度の春、夏、秋および令和7年春に実施予定の特別展の告知や、博物館のリニューアルの様子を紹介する展示を実施した。



(濱田流水・村口瑠望)



12. 中核施設としての重点事業

(1) 北九州ミュージアムパーク創造事業

—東田エリアを中核とする文化×産業×観光—

当館は同じ東田地区にあるスペース LABO やタカミヤ環境ミュージアム、市内の美術館などと相互連携して、文化庁「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」の助成を受けて、平成30年度から「東田ミュージアムパーク創造事業」を実施してきた。

令和2年度から上記の文化庁助成事業が、「博物館等を中核とした文化クラスター推進事業」に移行したことに伴い、本事業も衣替えし、東田地区のミュージアムのほか市内の企業ミュージアムを構成施設として、標記の事業を実施することとなった。旧事業から数えると6年目、新事業では4年目となる令和5年度は下記の事業を実施した。

1) 東田三館連携事業の実施

① 「ミュージアムフェスタ 2023」(令和5年8月19日～11月12日)

東田地区にあるいのちのたび博物館、スペース LABO、タカミヤ環境ミュージアムの3館が連携して開催した。3館で「東田ミュージアムスタンプラリー」を実施するとともに、博物館では特別展「なつかしい暮らしと道具展」を開催したほか、他館でも工作教室や講座などを実施し、地域全体の回遊性向上に努めた。



- ② 特別展「なつかしい暮らしと道具展」(令和5年10月14日～12月3日) 詳細は19ページ参照
市制60周年を記念して、北九州市が誕生した当時の暮らしや道具の移り変わりを紹介した。60年前の茶の間や台所を再現した展示では、実際に茶の間に上がって当時の暮らしを感じることができたほか、触って体験できる展示もあり好評を得た。

2) 収蔵資料等(コレクション) デジタルアーカイブ事業

博物館の収蔵資料ならびに地域の歴史資源について、北九州市の足跡や変遷を示す近代資料を中心としてデジタルアーカイブを構築・公開している。令和5年度も引き続き博物館収蔵資料の写真撮影を行い、収蔵コレクションのデータベースを作成した。また、当館所蔵資料の情報を一部公開しているデータベースに、資料写真と解説文を追加した。

3) 博物館魅力磨き上げ(展示空間の進化) 事業 詳細は12ページ参照

令和3年度に作成した展示等施設改修基本計画(令和4～5年)をもとに、令和4年度に引き続き、常設展の一部をリニューアルした。

(田平直幸)

(2) 東アジア友好博物館交流事業

当館は北九州市の姉妹都市の韓国・仁川広域市の仁川広域市立博物館、友好都市の中国・大連市の旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」を締結し、毎年館長会議を開催するとともに、学芸員派遣事業や展示交流事業などを継続的に実施している。

今年度の当番館は仁川広域市立博物館で、7月25日(火)に実務者会議、12月6日(水)に館長会議をおこなった。なお、旅順博物館は両会議とも参加を予定していたものの、直前に変更となり、オンラインでの参加となった。

実務者会議においては、前年度実施したシンポジウム「東アジアの海港都市と建築—北九州・仁川・大連—」について、当館から開催報告をおこなった。また、12月に予定しているシンポジウムについて、仁川広域市立博物館から趣旨説明と事前報告をおこない、シンポジウムについての合意書を作成し、郵送で調印することとした。さらに旅順博物館から令和7年度に主催するシンポジウムのテーマを「東アジアの海港都市と海神信仰」にしたいとの提案があった。

館長会議では、当館からシンポジウム「東アジアの海港都市と建築—北九州・仁川・大連—」について開催報告をおこなった。また、旅順博物館より、来年度のシンポジウムのテーマについて提案があった。その他、実務者会議・館長会議前後に仁川広域市甕津郡に所在する信島、矢島、茅島3島に赴き、新しく建てられた島の資料館、1915年以前に建てられた民家、塩田などの調査をおこなうことができた。シンポジウムに先んじて各国担当者による現地調査をおこなえたことは非常に有意義なものとなった。

なお、仁川広域市立博物館主催のシンポジウム「東アジアの海港都市と島」は館長会議終了後の午後、12月6日(水)に仁川広域市立博物館1階の石南ホールでおこなわれ、仁川広域市立博物館と当館担当者が登壇、旅順博物館はオンライン上で参加・発表をおこなった。

シンポジウムの基調講演は韓国・国立民俗博物館チョン・ヨンハク学芸研究官による「仁川の島民の生活文化」があったのち、関連報告として仁川広域市庁禹錫勳学芸研究士による「自然環境に応じた仁川沿岸・島嶼地域の漁法の比較—江華郡西島面 ポルム島、甕津郡北島面 信矢茅島、甕津郡紫月面 紫月島を中心に—」、旅順博物館宣教部劉芳主任による「大連の島文化—長海県—」、当館宮元による「北九州の離島、藍島と馬島をめぐる考古学的研究」がおこなわれた。参加者は60名、129ページの要旨集(三ヶ国語)も刊行された。

(宮元香織)



実務者会議の様子(中央・旅順博物館はデジタル加工)



館長会議集合写真(下面は左が当館、右が旅順博物館)



現地調査(実務者会議時)



シンポジウム討論の様子

13. 教育普及事業

(1) セカンドスクール事業

博物館が第2の学校(教室)として、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、学校教育現場と博物館との連携強化を進めている。

1) 博物館への誘致事業

学校や修学旅行を手配する旅行会社へのPR・セールス活動

小・中学校向けの情報誌を年間8回発行(幼・保育園は年2回)

2) 学校教育支援事業

ガイドブック、体験活動プログラム資料など博物館活用資料の整備

化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡づくりなど体験学習プログラムの実施

小学校への出前授業、ディスカバリーボックスの貸出など授業づくり支援

職場体験学習、教員等社会体験研修の受け入れ、環境アクティブ・ラーニングの実施

3) 家庭教育支援事業

子ども教室(前期6回 後期10回の連続講座)や募集型講座の実施

ワークショップイベント等への参加

【令和5年度 実績】

1) 博物館への誘致事業

誘致先	市内	広島	長崎	佐賀	岡山	合計
訪問社数	37	26	10	6	6	85

※ 市内誘致先は、市内小・中学校。その他各県は、旅行社

2) 学校教育支援事業(学校等団体)

団体	保・幼	小学校	中学校	高・大	特別支援	合計
団体数	236	501	85	44	37	903
人数	10,447	33,691	6,507	2,637	983	54,265

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	古代の鏡	古銭	合計
学校数	17	3	11	5	0	1	37
人数	969	154	575	263	0	23	1,984

授業	昔の道具調べ	土地のつくり	環境アクティブ・ラーニング	合計
学校数	31	36	30	97
人数	1,472	2,191	1,431	5,094

3) 家庭教育支援事業(一般団体:市民センター、学童保育クラブ、子供会など)

- 団体数: 571 団体 人数: 14,120 人

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	古代の鏡	古銭	合計
学校数	2	1	2	2	1	0	8
人数	53	11	39	72	23	0	198

講座名	回数	参加者数
いのちのたび子ども教室 子どもスクール	6回	20名 (各20名×6回)
	10回	24名 (各24名×10回)
普及講座	23講座	348人

4) 学校教育支援事業

① 教員研修

※市内外の教員を対象とした研修

実施日時：令和5年7月26日（水）、8月2日（水）、4日（金）9:00～17:15

実施内容：体験プログラム、館内見学、バックヤードツアー、KGG体験など

実施結果：56名（市内39名、市外17名）

- 参加者の様子（アンケートより）
 - ・とても楽しく学ぶことができました。子どもたちにこの学びを還元していきたいです。
 - ・博物館の様々な活用法を知り、これからの学習指導で生かしていきたいと思います。



② みらいのとびらオンライン授業（中学校理科）

※市教育委員会の不登校児童を対象としたオンライン授業

実施日時：令和5年7月10日（金）、令和6年1月22日（金）9:00～11:00

対 応：自然史課学芸員2名 MT2名 市教委5名

実施内容：恐竜デッキ～アースモールの展示解説、動物標本収蔵庫にある標本についての解説

実施結果：参加人数 61名（1回目）・73名（2回目）

- 参加者の様子（感想より）
 - ・化石から骨折したことが分かったり、少ない骨でどの恐竜なのか分かったりと今の恐竜研究をする人たちの凄さが分かりました。
 - ・動物の骨格の違いが一番印象に残りました。同じ草食動物でも、先がとがっていたり、角の形が違ったりしてとても興味深かったです。
- 所感
 - ・多く子どもたちが参加を続けてくれていた。
 - ・館内のお客様も少なく、撮影も滞りなく行えた。
 - ・絶えずチャットに質問や意見・感想が送られてきて、児童生徒は興味深く意欲的に取り組んでいたようである。



③ オンラインによる博物館のワンポイント利用（ちょこっと博物館）

※学校の授業において、オンラインのワンポイント展示紹介

実施日時：令和5年10月17日（火）、18日（水）、

令和6年2月2日（金）、6日（火）、7日（水）、8日（水）、3月5日（火）

対 象：北九州市立小森江小学校3・6年、北九州市立清水小学校3年、

北九州市立永犬丸小学校3年、直方市立直方第三中学校1年

※各回出演時間 20～30分程度

実施内容：小学3年「お祭りの様子」「昔の道具について」、小学6年「化石について」、

中学1年「岩石について」「アンモナイトについて」

実施結果：

○ 所感

- ・担任の進め方で利用時間等は大きく変わるので事前の打ち合わせをきちんと行う必要はあるが、教育効果は非常に高く、博物館への誘致効果も高いと考える。



（2）普及講座

1) 自然史系の普及講座

自然史に親しみ、理解を深めてもらうため各学芸員の専門分野の講座を16回開催した。

種別	講座名	開催日	人数
野外観察会	身近な森を知ろう（春の部）	5月6日（土）	雨天中止
室内講座	小さな化石にふれてみよう！	5月7日（日）	25
室内講座	哺乳類の食べ物を調べてみよう！	5月13日（土）	8
野外観察会	バードウィーク市民探鳥会	5月14日（日）	32
室内講座	きみにもできる？遺伝子PCR	5月21日（日）	5
室内講座	昆虫標本作製教室	6月3日（土）	24
室内講座	顕微鏡で見る美しい鉱物	6月18日（日）	29

室内講座	植物細密画を描いてみよう！	7月9日（日）	14
夏休み教室	権現山の昆虫観察会	7月22日（土）	11
夏休み教室	化石と地質を楽しむジオハイキング	7月29日（土）	15
室内講座	ヤドカリのひっこしを観察しよう	10月1日（日）	12
野外観察会	恐竜時代の大地！皿倉山ウォーキング	10月8日（日）	雨天中止
室内講座	いのちのたびの恐竜	10月14日（土）	14
室内講座	植物細密画を描いてみよう！	10月22日（日）	9
野外観察会	身近な森を知ろう（秋の部）	11月11日（土）	5
野外観察会	大地の不思議を知る秋の平尾台ジオハイキング	11月12日（日）	8
室内講座	恐竜この1年	12月2日（土）	25
室内講座	食魚談義	12月9日（土）	12
合計	18講座	16日	248

2) 歴史系の普及講座

歴史や文化に関わる講座を実施し、理解に努めた。連続講座では、より深い学習を求める方々に向けた講座を15回行った。

種別	講座名	開催日	人数
歴史探訪	北九州の文化財を歩く【長野城】	4月15日（土）	雨天中止
室内講座	古文書読み方講座（全12回）	4月26日（水） ～3月27日（水）	40
室内講座	小倉織入門教室	7月29日（土）	15
歴史探訪	北九州の文化財を歩く【若松】	10月1日（日）	15
合計	5講座	14日	70

3) 自然史・歴史合同の普及講座

「いのたび自然塾」と称して、自然史課・歴史課共同で自然の営みと人々の歴史を考える講座を1回実施した。

種別	講座名	開催日	人数
いのたび自然塾	藍のたたき染めでオリジナルエコバッグを作ろう	8月3日（木）	30
合計	1講座	1日	30

4) いのちのたび子ども教室

当館の特色を活かした体験活動などを行い、自然や歴史について学習することを目的とする子ども（小4～中3）を対象とした全6回の連続講座を実施した。基本的には、なるべく座学ではなく、専門家である学芸員とともに観察をしたり、体験活動を行ったりする内容とした。

【参加人数】20名（各20名×6回）

講座内容	担当学芸員	実施日
アンモナイトとオウムガイの観察	御前明洋（自然史課）	5月27日（土）
古文書解説入門	佐藤凌成（歴史課）	6月10日（土）
結晶の観察	森 康（自然史課）	6月17日（土）
恐竜の歯の観察	大橋智之（自然史課）	7月8日（土）
葉っぱからわかること	真鍋 徹（自然史課）	9月9日（土）
体験プログラム・活動したことをまとめよう	MT	9月23日（土）

5) 東田ミュージアムパーク子どもスクール

当館やスペース LABO、タカミヤ環境ミュージアムがある東田地区を中心に、その周辺にある KGG や安川電機みらい館でそれぞれの特色を活かした体験活動などを行い、自然や歴史、環境、ものづく

りなどについて学習することを目的とする子ども（小5～中3）を対象とした全10回の連続講座。その内、当館は4回の講座を担当し、基本的には、なるべく座学ではなく、専門家である学芸員とともに観察をしたり、体験活動を行ったりする内容の講座。

【参加人数】24名（各24名×10回）

講座内容	担当学芸員	実施日
鳴く虫の観察	蓑島悠介（自然史課）	10月15日（日）
ハロウィンプログラム	KGG	10月29日（日）
昔の道具とくらし体験	日比野利信（歴史課）	11月4日（土）
植物を使った染物やしおりを作ろう	スペースLABO	11月18日（土）
生き物観察会	環境ミュージアム	12月16日（土）
手づくりモーター教室	安川電機みらい館	12月26日（火）
魚の形の観察	日比野友亮（自然史課）	1月13日（土）
ウィンタープログラム	KGG	1月27日（土）
CO ₂ 出さずに発電。水素の実験	環境ミュージアム	2月17日（土）
古代の鏡 ミニモデルづくり	宮元香織（歴史課）	2月24日（土）

6) 特別展の普及講座等

特別展に関連したイベントとして下記を開催した。

展覧会	イベント名	開催日	人数
夏の特別展	ドキドキがとまら night ミュージアム	7月28日（金）	824
		8月25日（金）	1000
秋の特別展	関連講演会「民具の可能性」	10月14日（土）	56
秋の特別展	ハロウィンナイトミュージアム	10月28日（土）	669
秋の特別展	繭からどうやって糸になるの？ 見てみよう・やってみよう 座繰りの実演・体験	11月3日（金）	40
秋の特別展	ハギレでオリジナルのしおりを作ろう	11月23日（木）	30
秋の特別展	学校団体への展示解説	学校団体（3団体）からの 依頼により実施	132
春の特別展	お花見ナイトミュージアム	3月30日（土）	966

合計 3,717名

7) 外部機関との共催による講演会

北九州市立大学国際環境工学研究科、八幡ローターアクトクラブとの共催で、「化石の日」記念講演会として、3名の演者による講演とパネルディスカッションからなるイベントを行った。

種別	イベント名	開催日	人数
「化石の日」記念講演会	北九州と化石たち	10月28日（土）	36

(3) 博物館実習

1) 自然史課博物館実習

学芸員養成過程の学生を受け入れ、各学芸員が数講座ずつを担当した。5日間と10日間を学生が選択。

1期：8月1日（火）～8月12日（土）、日曜・月曜休講の10日間

人数：13名（うち5名は5日間）

所属大学：北九州市立大学3名、福岡大学4名、九州大学1名、久留米大学1名、山口大学2名、琉球大学1名、八洲学園大学1名

2期：8月22日（火）～9月2日（土）、日曜・月曜休講の10日間

人数：14名（うち5名は5日間）

所属大学：九州大学1名、九州産業大学1名、宮崎大学1名、熊本大学1名、山口大学3名、山口県立大学1名、広島大学1名、東海大学1名、上智大学1名、筑波大学1名、帯広畜産大学2名

2) 歴史課博物館実習

学芸員養成課程の学生を受け入れ、それぞれ学芸員が分担して指導をおこなった。

期間：令和5年9月5日（火）～9月9日（土） 5日間

人数：10名

所属大学：北九州市立大学3名、西南学院大学1名、崇城大学1名、大東文化大学1名、鶴見大学1名、東亜大学1名、武庫川女子大学1名、立正大学1名

（4）職場体験・職員研修受け入れ

教育機関等からの依頼を受け、生徒・学生・教職員などが将来に向けての就業体験を行い、また、社会人として広く見識を深めることが出来るように研修の企画・運営を行っている。今年度はインターシップ2件、職場体験3件の依頼を受けた。

<インターンシップ①>

期間 令和5年6月5日（月）～8日（木）

研修者 大和青藍高等学校 3学年1名

内容○ 自然史研修（魚類学）

- 歴史研修（古文書の取扱と整理）
- MT業務研修（博物館概要、体験プログラム 団体受付業務等）

<インターンシップ②>

期間 令和5年9月4日（月）～8日（金）

研修者 福岡県立大学 1学年3名

内容○ 自然史研修（古無脊椎動物）

- 歴史研修（歴史資料の取扱）
- MT業務研修（博物館概要、体験プログラム 団体受付業務、清掃業務）

<職場体験①>

期間 令和5年7月25日（火）～26日（水）

研修者 西南女学院中学校・高等学校 中学校2学年4名

<職場体験②>

期間 令和5年9月21日（木）～22日（金）

研修者 岡垣町立岡垣中学校 2学年4名

<職場体験③>

期間 令和5年10月11日（水）～12日（木）

研修者 北九州市立枝光台中学校 1学年4名

職場体験の内容（各学校とも共通）

- 自然史研修（爬虫類・両生類、昆虫、魚類、甲殻類・貝類から1分野）

- 歴史研修（近現代史、考古から1分野） ※自然史または歴史の1分野
- MT 業務研修（博物館概要、体験プログラム 団体受付業務）

（５）外部機関の依頼による講演など

小・中学校や高等学校・大学など学校教育機関、年長者大学や市民センターなど社会教育機関ほか、外部機関の依頼を受けて、学芸員が専門分野に関する講演などを行った。

1) 普及課

- 11 件：福岡市保健環境学習室まもる一む、沖縄こどもの国動物園、熊本野生生物研究会、奄美博物館、宮古市クリーンセンタープラザなどにおいて、生物の生態、生態系、保全などについての講演等を行った。

2) 自然史課

- 31 件：市内外の小学校や高等学校、北九州市立大学・九州大学・岐阜大学・九州国際大学などの大学、我孫子市鳥の博物館や和歌山県立自然博物館、岩国市や薩摩川内市、竹富町などの地方公共団体、帆柱自然公園愛護会などの依頼を受け、北九州自歴博や博物館学に関する講義や観察会、学術調査などを実施した。なお、昨年度に引き続き、ZOOM などを用いたリモート対応も行った。

3) 歴史課

- 19 件：市の新規採用職員研修、北九州市立大学、九州共立大学、北九州工業高等専門学校、市立各小学校、北九州市年長者大学校（穴生学舎、周望学舎）、各市民センター、北九州観光市民大学、市内の各郷土史会などにおいて、北九州市の歴史と文化、日本遺産（長崎街道）、古墳、小倉織、小倉藩（小笠原騒動）、戦国時代の北九州の歴史や城郭など様々なテーマで講演などを行った。

（６）団体・委員会への就任依頼

1) 普及課

伊澤雅子

- ・福岡県希少野生生物保護検討会議委員（福岡県環境部）
- ・福岡県希少野生生物保護検討会議哺乳類分科会委員長（福岡県環境部）
- ・福岡県環境審議会委員（福岡県環境部）
- ・福岡県環境審議会公園鳥獣部会委員長（福岡県環境部）
- ・福岡県特定外来生物防除対策検討委員（福岡県環境部）
- ・福岡県アライグマ防除対策協議会長（福岡県環境部）
- ・沖縄県土地開発審査会委員（沖縄県企画部）
- ・ノイヌ・ノネコ対策事業検討委員会委員（沖縄県環境部）
- ・イリオモテヤマネコ交通事故防止対策検討会委員（沖縄県環境部）
- ・西表財団顧問（西表財団）
- ・沖縄県観光振興基金検討委員会（沖縄県文化観光スポーツ部）
- ・浦内橋環境モニタリング検討会委員（沖縄県土木建築部）

- ・沖縄県版レッドデータブック第4版改定委員会委員委員長（沖縄県環境部）
- ・沖縄県版レッドデータブック第4版哺乳類分科会委員（沖縄県環境部）
- ・オガサワラオオコウモリ保護増殖検討会委員（環境省）
- ・ツシマヤマネコ保護増殖検討会委員（環境省）
- ・ツシマヤマネコ生息状況モニタリング評価会議委員（長崎県環境部）
- ・ツシマヤマネコファウンダー候補導入検討ワーキンググループ委員（環境省）
- ・イリオモテヤマネコ保護増殖検討会委員（環境省）
- ・イリオモテヤマネコWG委員（環境省）
- ・環境省希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- ・国立大学法人琉球大学外部評価委員（国立大学法人琉球大学）

2) 自然史課

真鍋 徹

- ・福岡県環境影響評価専門委員（福岡県環境部）
- ・福岡県希少野生生物検討会議植物分科会委員（福岡県環境部）
- ・広谷湿原県設置施設管理方針検討委員会委員（福岡県環境部）
- ・北九州市響灘ビオトープ希少種保全検討会議委員（北九州市環境局）
- ・小石原川ダムモニタ林部部会委員（水資源機構）
- ・小石原川ダムモニタ林部部会委員クマタカ保全検討部会（水資源機構）
- ・筑後川水系ダム群連携事業環境保全委員会委員（水資源機構）
- ・日本景観生態学会幹事長（令和5年12月31日まで、日本景観生態学会）
- ・日本景観生態学会編集委員（日本景観生態学会）
- ・日本景観生態学会生態系インフラ活用検討委員（日本景観生態学会）
- ・西日本自然史系博物館ネットワーク理事（特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク）

森 康

- ・日本鉱物学会博物館委員会委員（日本鉱物学会）

大橋智之

- ・石川県白山市手取層群化石調査団員（白山市）
- ・日本古生物学会欧文誌編集幹事（日本古生物学会）

太田泰弘

- ・国指定天然記念物「東峰村の阿蘇4火砕流堆積物および埋没樹木」整備基本計画策定委員会委員（東峰村）
- ・日本地質学会代議員（日本地質学会・地方区）
- ・日本地質学会生涯教育委員会委員（日本地質学会）
- ・日本地質学会西日本支部役員（日本地質学会）
- ・日本地質学会古生物部会・世話人（日本地質学会）
- ・日本洞窟学会評議員（日本洞窟学会）
- ・日本洞窟学会洞窟学雑誌編集委員（日本洞窟学会）
- ・福岡県環境教育学会運営委員（福岡県環境教育学会）

蓑島悠介

- ・国道201号香春町～行橋市環境影響評価技術検討委員会委員（国土交通省九州地方整備局）
- ・河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省九州地方整備局）

- ・「標本救済ネット」ケースワーカー（特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク）
- ・日本昆虫学会代議員（一般社団法人日本昆虫学会）
- ・日本昆虫学会将来問題検討委員会（一般社団法人日本昆虫学会）
- ・日本昆虫学会英文誌編集委員会 Associate Editor（一般社団法人日本昆虫学会）
- ・日本甲虫学会評議員（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会庶務幹事（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会ホームページ担当幹事（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会和文誌編集委員会（日本甲虫学会）

江頭幸士郎

- ・希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- ・環境省第5次レッドリスト・レッドデータブック評価者（環境省）
- ・福岡県希少野生生物検討会議検討会委員兼爬虫類・両生類分科会委員（福岡県環境部）
- ・宇佐市オオサンショウウオ保護管理委員会委員（宇佐市教育委員会）
- ・国道201号香春町～行橋市環境影響評価技術検討委員会委員（国土交通省九州地方整備局）
- ・河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省九州地方整備局）
- ・林道豊前耶馬溪線建設に伴う環境調査アドバイザー（福岡県行橋農林事務所）
- ・筑紫野古賀線改良に伴う環境調査アドバイザー（福岡県土整備事務所）
- ・日本爬虫両生類学会英文誌編集委員会委員（日本爬虫類両生類学）
- ・九州両生爬虫類研究会運営委員・編集委員長（九州両生爬虫類研究会）

日比野友亮

- ・福岡県希少野生生物検討会議魚類・甲殻類分科会委員（福岡県環境部）
- ・日本魚類学会代議員（日本魚類学会）
- ・日本魚類学会編集委員（日本魚類学会）
- ・日本魚類学会優秀発表賞審査委員（日本魚類学会）
- ・2024魚類学会年会福岡大会実行委員（日本魚類学会）
- ・標準和名検討委員（日本魚類学会）
- ・ニッチェ・ライフ編集委員（ニッチェ・ライフ編集委員会）

中原 亨

- ・福岡県環境影響評価専門委員（福岡県環境部）
- ・福岡県希少野生生物検討会議鳥類分科会委員（福岡県環境部）
- ・日本生態学会九州地区会福岡県委員（日本生態学会）
- ・日本鳥学会企画委員（日本鳥学会）
- ・日本鳥学会英文誌編集委員（日本鳥学会）
- ・日本鳥学会代議員（日本鳥学会）
- ・2023年度日本鳥学会ポスター賞審査委員会委員長（日本鳥学会）

竹下文雄

- ・日本ベントス学会英文雑誌（Plankton and Benthos Research）編集委員
- ・日本甲殻類学会英文誌（Crustacean Research）編集委員
- ・熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター学外協力研究員
- ・「標本救済ネット」ケースワーカー（特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク）

中西 希

- ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産地域科学委員会委員（環境省）

- ・令和5年度イリオモテヤマネコ保護増殖事業検討会委員（環境省）
- ・イリオモテヤマネコWG委員（環境省）
- ・令和5年度沖縄県北部地域におけるマングース防除事業検討委員会委員（環境省）
- ・福岡県希少野生生物検討会議哺乳類分科会委員（福岡県環境部）
- ・福岡市環境影響評価審査会委員（福岡県環境局）
- ・令和5年度沖縄県北部地域マングース防除事業検討委員会委員（沖縄県自然保護課）
- ・令和5年度外来種対策事業（哺乳類対策）作業部会委員（沖縄県自然保護課）
- ・西表島モニタリング評価委員会委員（沖縄県自然保護課）
- ・特別天然記念物カモシカ食害対策事業に係るカモシカ通常調査現地調査員（大分県教育委員会）
- ・第13期北九州市環境影響評価審査会委員（北九州市環境局）
- ・竹富町西表島エコツアーリズム推進協議会委員（竹富町）
- ・日本哺乳類学会英文誌編集委員会主任編集委員（日本哺乳類学会）
- ・日本哺乳類学会代議員（日本哺乳類学会）

3) 歴史課

日比野利信

- ・九州史学研究会運営委員・編集委員・歴史資源部会長（九州史学研究会）

宮元香織

- ・飯塚市文化財保存活用推進委員会専門部会員（飯塚市教育委員会）
- ・佐賀県文化財保護審議会委員（佐賀県）
- ・宗像市文化財保護審議会委員（宗像市教育委員会）

富岡優子

- ・九州歴史資料館協議会委員（福岡県教育委員会）

中西義昌

- ・日本建築学会九州支部歴史意匠委員（日本建築学会）

1 4. ボランティア組織の活動

(1) シーダー組織の活動

1) 人数 (令和6年3月31日現在)

- ・ 登録人数 42名 [男性 19名 女性 23名]
20代 (1名) 30代 (0名) 40代 (0名) 50代 (1名)
60代 (8名) 70代 (22名) 80代 (10名) 90代 (0名)

2) 各グループの活動内容

<展示案内グループ>

来館者に対して館内の施設案内、常設展・特別展の展示解説、スポット解説を行う。

<講座補助グループ>

体験プログラムの補助、学芸員の普及講座の補助、子ども教室およびMTが行う授業（環境アクティブラーニング、昔の道具調べ）の補助を行う。

<演示グループ>

子ども向けの恐竜や生き物の「折り紙」、九州の民話を抜粋した「手作り紙芝居」などの読み聞かせ、お手玉・コマ回しなどの「昔あそび」、糸紡ぎから機織りまでを体験する「小倉織」などの実演を行う。

3) 活動実績

令和5年5月8日より、シーダー活動を全面再開した。活動内容は以下の通り。

<展示案内> 展示解説・案内

- ※ 展示案内・解説の受付デスクを設置し、解説希望者への対応を行った。
- ※ 毎月、グループ会議を実施し、成果や課題等について共通理解を図った。

<講座補助> 講座中の支援・補助、石臼の演示

- ※ 講座の準備や片付けの支援により、次の活動への回転がスムーズに行われた。
- ※ 石臼体験は1グループ9名までとし、状況に応じて実習場所を2~3か所設置。
- ※ 館外でのイベント（子ども図書館、東田イベント）の支援を行った。

<演 示> 紙芝居の演示、折り紙の演示、小倉織の実演

- ※ 特に、恐竜の折り紙等は、子どもたちに人気があった。毎週土曜日を中心に実施。
- ※ 小倉織の実演や体験は、様々な年代への興味・関心を高めた。

4) 研修

- ・ 全シーダーを対象とした「シーダーゼミ」を全10回（17講座）実施した。

(2) 資料整理補助グループ

(2-1) 植物さく葉標本整理補助グループ

1) 登録人数 (令和6年3月31日現在)

6名

2) 活動内容

植物さく葉標本の台紙への貼付および標本情報の転記等。

3) 活動実績

延べ日数 22日

整理標本点数 2,115点

(2-2) 現生脊椎動物標本整理補助グループ

1) 登録人数 (令和6年3月31日現在)

6名

2) 活動内容

現生鳥類冷凍標本の仮剥製化等。

3) 活動実績

延べ日数 1日

整理標本点数 3点

(2-3) 小倉織復元補助ボランティア

1) 登録人数 (令和6年3月31日現在)

13名

2) 活動実績

延べ日数 34日

秋の特別展「なつかしい暮らしと道具展」において、綿繰り・糸紡ぎ・機織りの実演・体験対応をおこなった。

15. 博物館友の会の活動

(1) 自然史友の会

目的

博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

会員数

546名（令和6年3月31日現在、以下同）

役員等

会長：小林 繁、副会長：新海義治・佐藤政弘、幹事長：新海義治（兼任）、事業担当幹事 12名、出版担当幹事 8名、庶務会計担当幹事 2名、会計監査 2名、評議員 28名、顧問 14名

年会費

正会員：大人 3,000円、小・中・高生 1,000円、家族 4,000円。賛助会員：10,000円

活動内容

- 1) 会誌「わたしたちの自然史」の発行（B5版、総カラー20～30ページ前後）
第158号（令和5年9月25日発行）：「タテハモドキの博物館周辺での目撃記録」等7件の報告と研究発表会要旨集
第159号（令和6年3月15日発行）：「足立山登山道でヒカゲチョウを採集」等11件の報告
- 2) 研究部会の活動：例会の実施（計34回）
地質鉱物（7回）、化石（2回）、植物（5回）、昆虫（2回）、水生動物（4回）、両生・爬虫類（12回）、鳥類（2回）
- 3) 友の会野外観察会の実施
令和5年6月18日（日）山田緑地にて。参加者32名。
- 4) 博物館との共催の野外観察会の実施
「バードウォーク市民探鳥会」令和5年5月14日（日）曾根干潟にて。参加者32名。
- 5) 市民向け室内講座の実施
「植物細密画を描いてみよう！」
第1回 7月9日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者13名。
第2回 10月22日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者9名。
- 6) 会員向け室内講座の実施
10月15日（日）13:00～15:00、博物館講座室にて。
- 7) 研究発表会の実施
4月23日（日）実施。「ヌマガエルの卵から幼体までの観察」等8件の発表。
- 8) 45周年記念事業の実施
11月12日（日）13:00～17:00、博物館ガイド館にて。2件の記念講演会を実施。
- 9) 会議等の実施
総会（1回）、評議員会（1回）、三役・各担当幹事会代表会（1回）、出版担当幹事会（3回）、事業担当幹事会（4回）、庶務会計担当幹事会（1回）。

(2) 歴史友の会

目的

本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、歴史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第2条）。

会員数

137名（令和6年3月31日現在）

役員等

会長：永尾正剛 副会長：渡辺善夫・福浦高利

年会費

正会員 5,000円 賛助会員 10,000円以上 臨時会員 実費（資料代）800円

活動内容（令和5年度）

- 1) 会誌「友の会だより」の発行（A4版、総カラー6ページ、年3回）
- 2) 講演会 年12回開催 参加者総計978名

日時	演題	講師（敬称略）	人数
4月8日（土）	小倉城主毛利・細川氏	北九州市立自然史・歴史博物館 歴史友の会会長 永尾正剛	97
5月13日（土）	前方後円墳出現の契機	旧百三十銀行ギャラリー館長 宇野慎敏	76
6月10日（土）	たたら製鉄と反射炉 幕末からの九州の鉄事情	北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員 松井和幸	73
7月8日（土）	神になった武士	九州大学名誉教授 高野信治	69
8月26日（土）	石垣と堀の最高傑作 —小倉城天守閣の壮大なドラマ—	北九州市立大学非常勤講師 佐藤浩司	83
9月9日（土）	日本の海底文化財とその調査・保存	佐賀大学全学教育機構教授 宮武正登	75
10月14日（土）	「なつかしい暮らしと道具展」関連講演会 民具の可能性～「モノ」資料が語る歴史文化～	夏目漱石内坪井旧居館長 吉留徹	55
11月11日（土）	東アジア友好博物館交流事業「東アジアの海港都市と島」プレ報告 北九州の離島、藍島と馬島をめぐる考古学的研究	北九州市立自然史・歴史博物館 宮元香織	74
12月9日（土）	対馬暖流ベルト地帯の提唱と青潮文化圏をめぐる 縄文農耕の黎明	愛媛大学法文学部准教授 幸泉満夫	74
1月13日（土）	装飾古墳の広がりとは磐井の乱	九州歴史資料館 吉田東明	107
2月17日（土）	慶応2年小倉城自焼と小倉藩の孤軍奮闘	北九州市立自然史・歴史博物館 守友隆	97
3月9日（土）	『源氏物語』の成立と受容	九州大学大学院人文科学研究院准教授 岡田貴憲	98

- 3) 史跡見学会 年5回開催 参加者総計113名

日時	場所	人数
5月19日（金）～5月20日（土）	鹿児島方面史跡見学会	21
6月15日（木）	史跡めぐりバスハイク 京築方面	19
10月26日（木）～10月28日（土）	関西・福井方面史跡見学会	25
11月16日（木）	史跡めぐりバスハイク 山口・長府方面	23
2月8日（木）	史跡めぐりバスハイク 宗像・福津方面	25

- 4) 学芸員と行く文化財ガイドツアー 年2回開催 参加者総計66名

日時	名称	ガイド	人数
4月20日（木）	企業家の邸宅 旧安川邸・旧松本邸	北九州市立自然史・歴史博物館（近現代史担当・歴史課長）日比野利信	25
11月25日（木）	小倉藩主の菩提寺 広寿山福聚寺	北九州市立自然史・歴史博物館（古美術工芸担当）富岡優子	41

16. 資料の収集保存状況

(1) 自然史課

1) 令和5年度資料登録状況

令和5年度の自然史資料の登録（デジタルデータベース化）数は以下のとおりである。

分野		購入		委託製作		寄贈		寄託		採集		交換		その他		合計		
		件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	
生物系	無脊椎動物	IvR	0	0	0	0	141	525	0	0	0	0	0	0	0	0	141	525
	脊椎動物	VR	5	5	0	0	113	113	0	0	161	161	0	0	111	111	390	390
	昆虫	IR	0	0	0	0	97	97	0	0	7	7	0	0	0	0	104	104
	種子植物	GR	8	11	0	0	700	858	0	0	0	0	0	0	0	0	708	869
	シダ植物	AR	0	0	0	0	87	91	0	0	0	0	0	0	0	0	87	91
	コケ類	BR	0	0	0	0	200	206	0	0	0	0	0	0	0	0	200	206
	菌類	FR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	藻類	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<小計>		13	16	0	0	1,338	1,890	0	0	168	168	0	0	111	111	1,630	2,185
地学系	無脊椎動物	IvP	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15	0	0	0	0	15	15
	脊椎動物	VP	16	17	0	0	18	21	0	0	0	0	0	0	42	42	76	80
	昆虫	IP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	種子植物	GP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	シダ植物	AP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	岩石	L	0	0	0	0	507	531	0	0	2	2	0	0	1	1	510	534
	鉱物	M	0	0	0	0	612	687	0	0	0	0	0	0	0	0	612	687
	<小計>		16	17	0	0	1,137	1,239	0	0	17	17	0	0	43	43	1,213	1,316
その他	その他	O	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計			29	33	0	0	2,475	3,129	0	0	185	185	0	0	154	154	2,843	3,501

2) 令和5年度資料収集状況

令和5年度の自然史資料の収集点数および主な収集資料は以下のとおりである。

	購入	委託製作	寄贈	寄託	交換	採集	その他	合計
甲殻類・貝類	0	0	525	0	0	0	0	525
昆虫類等	0	0	797	0	0	834	0	1,631
魚類	0	0	12	0	0	0	0	12
両生類	0	0	0	0	0	148	4	152
爬虫類	0	0	0	0	0	15	26	41
鳥類	5	0	214	0	0	35	0	254
哺乳類	0	0	0	0	0	0	0	0
種子植物	0	0	1,268	0	0	0	0	1,268
シダ植物	0	0	65	0	0	0	0	65
コケ植物	0	0	361	0	0	0	0	361
<小計>	5	0	3,242	0	0	1,032	30	4,309
岩石	0	0	506	0	0	2	1	509
鉱物	0	0	612	0	0	0	0	612
古脊椎動物	17	0	21	0	0	0	42	80
古無脊椎動物（昆虫以外）	0	0	108	0	0	15	0	123
昆虫類等	0	0	0	0	0	0	0	0
植物	0	0	0	0	0	0	0	0
<小計>	17	0	1,247	0	0	17	43	1,324
<小計>	0	0	0	0	0	0	0	0
<小計>	0	0	0	0	0	0	0	0
<小計>	22	0	4,489	0	0	1,049	73	5,633

<主な購入・委託製作資料>

- ・メガロサウルス下顎レプリカ（1点）
- ・クロマグロ剥製ほか魚類標本剥製（10点）
- ・ミナミコアリクイ交連骨格（1点）
- ・化石人類頭骨模型（4点）
- ・アフリカヘラサギ・カラフトワシほか鳥類剥製（16点）

<主な寄贈資料>

- ・福岡県産を中心としたコケ植物乾燥標本（361点）
- ・九州産を中心とした維管束植物さく葉標本（1,125点）
- ・世界の果実および種子乾燥標本（238点）
- ・福岡県立糸島高等学校理科教材（約120点）
- ・九州産を中心とした貝類標本（525点）
- ・シノノメサカタザメ剥製標本（1点）
- ・九州産を中心とした無脊椎動物化石標本（83点）
- ・九州産昆虫標本（約750点）

<主な採集資料>

- ・北海道産白亜紀コレオイド類化石（4点）
- ・四国産白亜紀アンモナイト類化石（6点）
- ・九州産昆虫標本（約800点）

（2）歴史課

1）令和5年度資料登録状況

歴史系の収蔵資料については、出所ごとの資料群台帳を作成し、1点ごとの詳細目録など各資料群に関わる諸データを紐付けしながら管理を図っている。また「北九州ミュージアムパーク創造事業」（34ページ参照）の一環として、博物館資料等のデジタルアーカイブの構築を進めていくなかで、IB Museum SaaSを用いて、収蔵資料1点ごとのデータを登録して、博物館のホームページから検索ができるシステムの構築を始めている。現時点での登録は一部に過ぎないが、今後は毎年度の目標値を定めて、登録数を確実に増やしていく。

2）令和5年度資料収集状況

令和5年度の歴史資料の受入点数は以下のとおりである。

	令和4年度末累計	寄贈	新規寄託	購入	合計	令和5年度末累計
歴史系	34,255	902	0	104	1,006	35,261
考古系	51,446	508	0	0	508	51,954
計	85,691	1,410	0	104	1,514	87,205

3）令和5年度収集資料の概要

（寄贈資料）

令和5年度は18件、1,410点の寄贈を受けた。そのうち寄託から寄贈に切り替わった資料（小倉藩主小笠原家から拝領したと考えられる品々）が4点あった。長年寄託されている資料については、所蔵者

の世代交代もみられるなかで、改めて寄贈の申し出を受ける事例も出てきている。その際に所蔵者に挨拶にうかがうと、他の資料が発見されることもある。今後も確実かつ積極的に対応したい。

寄贈については、特別展や企画展のための事前調査の過程で、あるいは会場や報道に接した方からの連絡を受けて、関係資料の収集につながる事例がある。令和4年度に開催した企画展「折尾駅ものがたり」に関わって、黒崎駅や折尾捜査場の建設工事写真のスクラップブック2冊の寄贈があった。また、令和5年度に開催した特別展「なつかしい暮らしと道具展」に関わる資料として、昭和戦後に女性が洋裁で仕立てた洋服2件・9点の寄贈があった。さらに、令和6年度開催予定の「お菓子の歴史展（仮）」を前に、銘菓「小菊饅頭」で知られる富士屋の関係資料18点の寄贈を受けた。加えて、金井菓子店の関係資料144点の寄贈を受けた。同店は駄菓子販売店で、寄贈品の多くは玩具類を中心とする取扱商品である。玩具類としては、鷹の巣幼稚園と個人から合わせて519点の寄贈もあった。

皇學館大學名誉教授の恵良宏氏が収集した古文書32点と、考古資料507点の寄贈を受けた。古文書は遠賀郡本城村の庄屋・大庄屋を務めた佐藤家文書を中心に北九州に関わるもので、江戸時代前期・中期のものもあり、貴重である。考古資料は恵良氏が各地で表面採集した須恵器や土師器、石器、購入した青銅器や玉製品が中心である。とりわけ小倉南区朽網で出土した「複線波紋縁方格規矩八禽鏡」（完形）は、後漢末の作とみられる貴重なものである。

当博物館の代表的なコレクションのひとつに、堀切辰一時代布コレクション「襦袢」がある。堀切氏は庶民生活史研究者で、「庶民時代裂研究会」を主宰したが、今回会員だった方から古布・衣類16点の寄贈があった。堀切氏によるコレクションを補完するものとなる。

（購入資料）

中世の古文書2件・3点と近世～近代の地方文書1件・101点を購入した。中世文書はいずれも貫氏に関わる史料で、博物館が所蔵する貫氏関係の古文書8点に今回の3点が加わって、合わせて研究・活用に役立つものである。近世～近代の地方文書は幕末～明治前期の豊前国企救郡荒生田村の庄屋・戸長、明治中期～大正期には企救郡役所や小倉市役所に勤務した中村家伝来の古文書である。地域の幕末維新期の動向や近代への移行、都市化に伴う変化などを知ることができるものである。

17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）

当館には、「外部の研究員の受け入れに関する要綱」に基づき、所蔵する資料などの研究を希望する外部研究者を受託研究員として受け入れる制度（以下、受託研究員制度とする。）が存在する。また、研究や教育普及のため、当館が所蔵する資料の研究などを館内において実施する制度（以下、特別観覧制度とする。）が存在する。

（1）受託研究員制度による資料の利用状況

1）自然史資料

令和5年度は、本制度によって、3名の外部研究者が当館所蔵の化石の研究などを実施した。

2）歴史資料

令和5年度は、本制度によって、当市の学芸員1名が受託研究員となり、科学研究費による研究を実施した。

（2）特別観覧制度に基づく資料利用

令和5年度の特別観覧制度による資料の利用状況は以下のとおりである。

1）自然史資料

- ・生物系資料観覧：16件、18人
- ・地学系資料観覧：10件、15人

2）歴史資料

- ・歴史系資料観覧：5件、8人
- ・考古系資料観覧：3件、3人

18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）

(1) 研究目的での資料の貸出状況

1) 自然史課

令和5年度の研究目的での資料の貸出状況は以下のとおりである。

- ・生物系資料貸出：11件、532点
- ・地学系資料貸出：5件、38点

上記以外に鳥類の標本データの利用依頼1件にも対応した。

2) 歴史課

なし

(2) 教育普及目的のための貸出

1) 自然史課

	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出期間
1	イリオモテヤマネコ頭骨・下顎：1点	1	環境省西表野生生物保護官事務所	環境省西表野生生物保護センターでの展示	R5.4.1～R6.3.31
2	アノマロカリス（復元模型・化石標本）：各1点、アースロプレウラ（復元模型・化石標本）：各1点、タリモンストラム（化石標本）・ミメタスター（化石標本）・山口県産イグアノドン類足跡化石：各1点	7	萩博物館	特別展「萩・古生物キングダム」において展示	R5.5.30～R5.9.29
3	ネコ科動物（剥製：51点、ネモ皮：8点、骨格標本：56点、骨格レプリカ：12点、液浸標本：15点）、昆虫類（標本：6点、模型：1点、乾燥標本1点）	146	名古屋市科学館	特別展「ネコ」～にゃんと！クールなハンターたち～での展示	R5.6.26～R5.10.20
4	フンボルトペンギン全身骨格標本：1点	1	させぼパール・シー株式会社（西海国立公園 九十九島動物園 森きらら）	特別展「スイーツとそらとぶペンギン展」での展示	R5.9.1～R5.11.30
5	大分県玖珠盆地産の魚類化石：1点（KMNHVPI02026）	1	先方の特別展での展示（様々なコンクリーションの紹介用）	特別展「球状コンクリーションの謎II」での展示	R5.10.28～R6.6

2) 歴史課

	資料名	点数	貸出先	使用目的	貸出日
1	宮原遺跡出土石包丁	1	大阪府立弥生文化博物館	大阪府立弥生文化博物館の常設展示及び収蔵展示	R5.4.1～R6.3.31
2	牧山古墳群出土平瓶	1	戸畑郷土史会	戸畑図書館1階郷土資料室における展示	R5.4.1～R6.3.31
3	糸車1点、綿繰機1点	1	北九州市立小倉庭園	「小倉織—その技と美」における展示	R5.4.1～R6.3.31
4	もんべ上下	1	北九州市平和のまちミュージアム	常設展示のため	R5.4.1～R6.3.31
5	安川敬一郎宛渋沢栄一書簡 安川敬一郎宛山川健次郎書簡	2	安川邸	常設展示のため	R5.4.1～R6.3.31
6	石包丁使用復元模型	1	春日市奴国の丘歴史資料館	企画展「わたしたちの須玖遺跡群」における展示	R5.8.17～R5.10.31
7	徳川家綱朱印状1通、徳川家宣朱印状1通、徳川家齊朱印状1通	3	(公財)アイヌ民族文化財団国立アイヌ民族博物館	第7回特別展「考古学と歴史 岳からみるアイヌ史展-19世紀までの軌跡-」における展示	R5.8.31～R5.11.23
8	狩野常信筆「寿老人図・鶴図・亀図」3幅対、感謝状（一鎗 日本号）1通	4	福岡市博物館	特別展「黒田長政没後400周年 黒田伯爵家の名品展」における展示	R5.9.1～R5.11.15
9	小倉碑文拓本、錦絵「宮本無三四がんりう島に武勇をあらわす」	2	下関市立歴史博物館	特別展「巖流島-そして、島は決闘の聖地とおなった-」における展示	R5.9.15～R5.12.22
10	市指定金銅製雲珠（北九州市日明一本松塚古墳出土）1点、市指定金銅製辻金具（北九州市日明一本松塚古墳出土）4点	5	九州歴史資料館	特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」展における展示	R5.10.7～R5.12.3

19. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）

1) 自然史課

	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	コビレゴンドウ全身骨格・液浸標本：一式	一式	(株) エモハウス	文藝春秋社発行予定「晴れときどきライカ（落合陽一・著）」への掲載	R5.6.1
2	コベプテリクス中足骨などの産状レプリカ画像：1点	1	森浩嗣（佐川町立佐川地質館）	Paleontological Research 誌への投稿原稿に利用（原稿内で引用）	R5.6.11
3	関門層群産竜脚類化石のクリーニング作業風景画像：1点、関門層群産九脚類頸椎画像：1点、北九州市産出竜脚類復元原画：1点	3	福岡大学理学部地球圏科学科（担当：石原与四郎助教）	福岡大学理学部地球圏科学科ウェブサイトへの掲載	R5.6.29
4	アースモール全景・地学系収蔵庫：各1点	2	大山望（パリ古生物研究センター）	Pal-echos（パリ古生物センター刊の報告書）への掲載	R5.7.5
5	オレノデス（カンブリア紀三葉虫）標本写真：1点	1	京都芸術大学学生	卒業製作に利用（京都芸術大学に提出）	R5.8.30
6	タチウオ：1点	1	NPO法人 SoELa	北九州市子ども環境プロジェクト（環境局の事業）の一環で製作する地球環境カードに利用	R5.9.14
7	ハクセンシオマナキ映像：1点	1	きしわだ自然資料館	特別展「動物あし〜足元から知る生き物のくらし」	R5.9.29
8	プロトプテルム類展示標本画像：1点	1	(株) ネイティヴ・クラフト企画	高知さんさんテレビの番組「三山ひろしのさんさん歩」で使用	R5.10.8
9	イクウス・ニッポニクス（魚類化石）画像：1点	1	株式会社エイジャ	「長崎の教科書（JTB パブシリング刊）」への掲載	R5.10.20
10	化石クリーニングの様子画像：1点	1	IVSTV制作株式会社	日本テレビ「超無敵クラス」内の企画「放課後は別の顔」で使用	R5.11.18
11	三葉虫・トリゴニア・プテラノドン・カルカロクレス・ナウマンゾウ標本画像：各1点	5	第一学習社	教科書「高等学校改定地学基礎」への掲載（デジタル教科書も含む）	R6.1.12
12	ステゴサウルスの尾の写真：1点	1	株式会社 Gakken K12-1 事業部	Gakken 発行の「学研の図鑑 LIVE Q 恐竜クイズ図鑑」への掲載	R6.1.26
13	ヘテロティス（ナイルアロワナ）の画像：1点	1	TBS テレビ	「クレイジージャーニー」で放映	R6.2.1
14	スピノサウルス全身骨格レプリカ画像：1点	1	藤本淳子	技術評論社刊の書籍「ずかん古生物りれきしよ」への掲載	R6.2.2
15	コウベツブゲンゴロウ：1点	1	中島淳（福岡県保健環境研究所）	福岡県レッドデータブックに掲載	R6.2.6
16	トリケラトプス画像：1点	1	大悠社	鳳書院発行の「新発見!!トリケラトプスの全身骨格」への掲載	R6.2.29
17	イナバテナガゴガネ標本（化石）の画像：1点	1	メディア開発	誠文堂新光社発行の「化石のきほん（中国語（中国簡体字）版）：印刷物および電子版」への掲載	R6.3.7
18	ディプロドクス全身骨格レプリカ画像：1点	1	藤本淳子	誠文堂新光社発行の「おせっかいな化石案内」への掲載	R6.3.14
19	カッコウ類の托卵と擬態コーナーの展示風景画像：3点	3	徳江紀穂子（Leave a Nest Singapore Pte.）	申請者（特別展展示協力者）の研究業績が展示に活用されていることを、申請者の企業のウェブサイトやSNSで紹介する	R6.3.28

2) 歴史課

	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	小倉織見本帳（神安工場見本帳）、小倉織袴（明治・大正期）、小倉織袴、「山海愛度図絵」、「小倉織機之図」、「西国内海名所一覧」	6	KBC Mooov	九州朝日放送で放映の番組「温故知新 発見！九州スピリット」での「小倉織」の紹介のため	R5.5.10
2	小倉碑文拓本、錦絵「宮本無三四がんにう島に武勇をあらわす」	2	下関市立歴史博物館	下関市・彦島町合併 90 年記念特別展「巖流島—そして、島は決闘の聖地となった—」展示図録への掲載、及び公式ホームページ、公式 SNS 等での広報のため	R5.6.22
3	狩野常信筆「寿老人図・鶴図・亀図」3 幅対、感謝状（一槍 日本号）1 通	4	福岡市博物館	特別展「黒田侯爵家の名品」の展覧会印刷物と展覧会に関する広報に掲載のため	R5.6.23
4	木綿地板縮中着（堀切辰一コレクション No.12）	1	株式会社吉川弘文館 編集部	乾淑子著『着物になった（戦争）（仮題）』（歴史ライブラリー）に掲載のため	R5.7.7
5	徳川家綱朱印状、徳川家茂朱印状	2	国立アイヌ民族博物館	第7回特別展示に関する、HP、ポスター・チラシ・リーフレット・ニュースレター等の広報活動、新聞・雑誌記事掲載、展示パネルに利用のため	R5.7.20
6	小倉織袴（江戸時代後期）、小倉織袴（明治時代）、浮世絵「山海愛度図絵」、浮世絵「西国内海名所一覧」	6	一般社団法人 豊前小倉織研究会	令和5年度伝統文化親子教室事業としておこなう小倉織講座における使用テキスト作成のため	R5.7.20
7	「八幡町及製鉄所全図」、「若松市鳥瞰図原因」、「戸畑市鳥瞰図原因」	3	株式会社ゼンリンゼンリンミュージアム	企画展示「くきのうみ～近代産業の中心地 若松・八幡・戸畑～」において合併前の3市の発展を示す資料として複製パネル展示するため	R5.7.25
8	「小笠原忠基画像」（広寿山福聚寺所蔵、当館寄託）	1	有限会社 地人館	宗教法人宝仙寺発行『宝仙寺の象骨』記事に掲載のため	R5.10.13
9	旧小笠原玲子氏所蔵小笠原文書 126「伊那譜録 天」（5・6 丁表裏「足利義政御判御教書写」、17 丁表裏「村上義清書状写」、19 丁表裏「某義近書状写」、33・34 丁表裏・37 丁表「小笠原貞慶判物写」、38 丁裏 39 丁表「足利義輝御内書写」）	5	長野県立歴史館	信濃史学会編『信濃』掲載予定、村石正行「伊那譜録にみる松尾小笠原氏」（仮）に掲載のため	R6.1.31
10	「小笠原忠真画像」（広寿山福聚寺所蔵、当館寄託）	1	株式会社ハウフルス	「秘密のケンミン SHOW 極」ぬかだきの回の参考映像、見逃し配信（YouTube、ytvMyDo、TVer）で使用のため	R6.2.1

20. 研究業績

(1) 普及課

1) 論文など

Hayashi, S., Kubo, M., Sanchez-Villagra, M. R., Taruno, H., Izawa, M., Shiroma, T. Nakano, T. and Fujita, M. 2023. Variation and process of life history evolution in insular dwarfism as revealed by a natural experiment. *Frontiers in Earth Science*, 11. (査読あり)

Kobayashi, S., Arimitsu, S., Takaoka, C., Ono, T. and Izawa, M. 2023. Quantitative chemical analysis of defensive secretion of *Megacrania tsudai* (Phasmatidae) and effect of actinidine on its potential predators. *Journal of Chemical Ecology*, 49, 537–548. (査読あり)

水谷 晃・山本誉士・伊澤雅子・河野裕美. 2023. 道路沿いにおけるカンムリワシの出現個体数に時間や気象条件が与える影響. *日本鳥学会誌*, 72(1), 77–83. (査読あり)

Tobe, A., Sato, Y., Wachi, N., Nakanishi, N. and Izawa, M. in press. Seasonal diet partition among top predators of a small island, Iriomotejima Island in the Ryukyu Archipelago, Japan. *Scientific Reports*. (査読あり)

2) 普及書など

伊澤雅子. 2023. 第4章 生態. 土肥昭夫・伊澤雅子 (編) 「イリオモテヤマネコ 水の島に生きる」. pp.192–219. 東京大学出版会.

伊澤雅子・山田文雄. 2023. 第21章 亜熱帯生態系の哺乳類研究. 三浦慎悟他 (編) 「日本の哺乳類学百年のあゆみ」. pp.360–372. 文永堂出版.

3) 学会等講演

金尾由恵・中村智映・伊澤雅子. 2023. 動物園飼育下におけるオリオオコウモリの繁殖と成長. 日本哺乳類学会 2023 年度大会. 琉球大学

小林 峻・Somsak Panha・Nattawadee Nantararat・傳田哲郎・伊澤雅子. 2023. タイ高山帯固有種 *Mucuna thailandica* (マメ科) の送粉様式. 日本哺乳類学会 2023 年度大会. 琉球大学.

水谷 晃・井上太之・山本誉士・内野祐弥・官野 愛・伊澤雅子・河野裕美. 2023. 西表島においてカンムリワシの交通事故が発生する場所の特徴. 沖縄生物学会第 60 回大会. 琉球大学.

村田七々帆・長嶺 隆・中谷裕美子・黒田ゆうび・伊澤雅子・小林 峻. 2023. 沖縄島北部におけるイエネコのヒト由来餌への依存度の簡易推定法の検討. 日本哺乳類学会 2023 年度大会. 琉球大学.

中本 敦・中西 希・伊澤雅子. 2023. ニホンジカの個体数急増が絶滅危惧種ツシマヤマネコの主要な餌資源としての小型哺乳類の与える影響. 日本哺乳類学会 2023 年度大会. 琉球大学.

4) 外部資金獲得状況

【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金】

基盤研究 (C) . マメ科トビカズラ属をモデルとした広域分布種と局所分布種の送粉様式の差異の解明. 研究分担者：伊澤雅子 (研究代表者：小林 峻) . 2022–2025 年度.

【その他の外部資金】

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (公益財団法人自然保護助成金) . 対馬におけるニホンジカの個体数急増が絶滅危惧種ツシマヤマネコの生息環境に与える影響. 研究分担者：伊澤雅子 (研究代表者：中西 希) . 2022–2024 年度.

(2) 自然史課

1) 論文など

- Ando, R., Ujiie, K., Nishiyama, N. and Mori, Y. 2023. Depth-dependent slow earthquakes controlled by temperature dependence of brittle-ductile transitional rheology. *Reophysical Research Letters*, 50, e2022GL101388. (査読あり)
- Eto, K. and Matsui, M. (2023). A new brown frog from the Goto Islands, Japan with taxonomic revision on the subspecific relationships of *Rana tagoi* (Amphibia: Anura: Ranidae). *Current Herpetology*, 42 (2), 191–209. (査読あり)
- 日比野友亮. 2024. 九州大学で発見された木村清朗氏による室見川魚類目録ならびに博多湾流入河川の淡水魚類標本. 九州大学総合研究博物館研究報告, 21, 1–16. (査読あり)
- 日比野友亮・笹木大地. 2023. 伊勢湾からのコモチジャコの報告ならびに既往記録の整理. ニッチェ・ライフ, 11, 43–45. (査読なし)
- Ichizawa, S., Uenoyama, R., Nakanishi, N., Endo, Y., Suka, A., Izawa, M. and Miyazaki, M. 2023. A comparative profile of urinary scent signals of two endangered Japanese populations of leopard cat. *Frontiers in Ecology and Evolution* 11, 1194611. (査読あり)
- 上手雄貴・藁島悠介. 2023. 琉球列島産ヒメマルガムシ属の和名について. さやばねニューシリーズ, 51, 15. (査読なし)
- Kongsurakan, P., Nakahara, T. and Yamaguchi, N. M. 2023. Impacts of depredation by Large-billed Crows *Corvus macrorhynchos* on the colony of Japanese Murrelets *Synthliboramphus wumizusume* at Eboshijima, Japan. *Marine Ornithology*, 51, 169–178. (査読あり)
- Konishi, T., Ohara, M., Misaki, A., Matsuoka, H., Street, H. P. and Caldwell, M. W. 2023. A new derived mosasaurine (Squamata: Mosasaurinae) from southwestern Japan reveals unexpected postcranial diversity among hydropedal mosasaurs. *Journal of Systematic Palaeontology*, 21, 2277921. (査読あり)
- 是枝伶旺・久木田直斗・日比野友亮・本村浩之. 2023. 薩摩半島(鹿児島県本土)と徳之島・与論島(奄美群島)から得られた北限更新を含むタツウミヘビの記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 35, 28–34. (査読あり)
- Matsushige, K. and Hibino, Y. 2023. The effects of artificial light at night on the foraging activity of Japanese eels: implications of recreational fishing data. *Environmental Biology of Fishes*, 106, 1733–1746. (査読あり)
- Minoshima, Y. N., Fikáček, M. and Liu, H.-C. 2023. Larval morphology of *Crephelochares* and *Peltochares* (Coleoptera: Hydrophilidae). *Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae*, 63 (2), 305–322. (査読あり)
- 藁島悠介. 2023. コナラの葉裏に集まるミカドテントウ. さやばねニューシリーズ, 53, 36–38. (査読なし)
- Misaki, A., Okamoto, T. and Maeda, H. 2023. Evolutionary process of extremely twisted heteromorph ammonites from the Upper Cretaceous in Japan. *Papers in Palaeontology*, 9, e1525. (査読あり)
- 長野 光・日比野友亮. 2023. 福岡県におけるテンジクスズメダイの記録. ニッチェ・ライフ, 11, 46–47. (査読なし)
- Nakahara, T., Miyahara, K., Morimoto, Y. and Nagai, K. 2024. Expansion of the range of the Light-vented Bulbul *Pycnonotus sinensis* into mainland Japan. *Ornithological Science*, 23, 3–12. (査読あり)
- Nishiyama, N., Ujiie, K., Noro, K., Mori, Y. and Masuyama, H. 2023. Megathrust slip enhanced by metasomatic actinolite in the source region of deep slow slip. *Lithos*, 446–447, 107115. (査読あり)
- 杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・高橋俊吾・大橋直子・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・浦田健作・野井英明・宮田 薫. 2024. 活動実績 2023 年度 独自活動と博物館への協力, G&B 研究会報告書, 13, 3–32. (査読なし)
- Tanabe, K. and Misaki, A. 2023. Upper Cretaceous record of non-belemnitid coleoid jaws from Hokkaido, Japan, and its

- evolutionary implications. *Cretaceous Research*, 151, 105624. (査読あり)
- Tobe, Alisa., Sato, Y., Wachi, N., Nakanishi, N. and Izawa, M. in press. Seasonal Diet Partition among Top Predators of a Small Island, Iriomote Island in the Ryukyu Archipelago, Japan. *Scientific Reports*. (査読あり)
- Tokita, M., Iizuka, J., and Eto, K. (2023). Characterization of the adaptive morphology of the Stream Brown Frog, *Rana sakuraii* Matsui & Matsui, 1990, using geometric morphometrics. *Herpetology Notes*, 16, 761–771. (査読あり)
- 内山旬人・内山えりか・蓑島悠介. 2023. キバネツノトンボ *Libelloides ramburi* (MLachlan)は九州に分布する
のか? 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A 類 (自然史), 22, 21–25. (査読あり)
- Vo, V. Q., Ho, H.-C., Hibino, Y., Le, T. T. T., Tran, H. H. T. and Tran, T. C. 2024. Records of species of the snake eels genus (Family Ophichthidae) from Vietnam. *Vietnam Journal of Marine Science and Technology*, 24 (1), 59–71. (査読あり)
- 宿女太志・佐藤真央・日比野友亮. 沖縄県石垣島から得られた日本初記録のハナダイ科魚類 *Pseudanthias hutomoi* アワユキハナダイ (新称). *魚類学雑誌*, 早期公開. (査読あり)
- Yamaguchi, N. M., Amano, T., Kimura, T., Mine, R-i., Otsuki, K., Yamaguchi, E. and Nakahara, T. 2024. Discovery of a new breeding site for the endangered Japanese Murrelet *Synthliboramphus wumizusume* in Nagasaki, Japan. *Marine Ornithology*, 52, 23–26. (査読あり)
- 安田雅俊・森田祐介・宮村栄一・中西 希. 2023. 別府市で定着が確認された外来種クリハラリス. *大分自然博物誌ーブンゴエンシスー*, 5, 86–87. (査読なし)

2) 普及書など

- 日比野友亮. 2023. 非日常空間に残る遊び 屋台のうなぎ釣り文化. *ぎよぶる* 第 11 号. pp. 30–35. 北九州・魚部, 北九州市.
- 日比野友亮. 2023. 石木津川のかばやき. *ぎよぶる* 第 11 号. pp. 134–135. 北九州・魚部, 北九州市.
- 真鍋 徹. 2023. ヤブツバキ・ユキツバキ. *日本樹木誌編集委員会 (編) 日本樹木誌 二*, pp.515-534. 日本林業調査会, 東京.
- 蓑島悠介. 2023. がむしといふいきもの 新種とは. *ぎよぶる* 第 11 号. pp. 160–161. 北九州・魚部, 北九州市.
- 中原 亨. 2024. 曾根干潟. 谷口高司 (監修・絵) 「はじめての野鳥観察 (大人の遠足 BOOK プラス)」. pp. 178–179. JTB パブリッシング, 東京.
- 中西 希. 2023. 第 3 章 形態と分類. 土肥昭夫・伊澤雅子 (編) 「イリオモテヤマネコ 水の島に生きる」. pp. 171–191. 東京大学出版会.
- 竹下文雄. 2023. 「カニの歌を聴け」の苦労話を聴け. *Cancer* 第 32 巻. pp. 53–55.

3) 学会等講演

- Fujishima, K., Sasai, T., Hibino, Y., Nishizawa, H. and Mori, A. 2023. Morphology, diet, and reproduction of the sea snakes *Hydrophis melanocephalus* and *H. ornatus* (Elapidae, Hydrophiinae) in Okinawa, Japan. *Asia Pacific Coral Reef Symposium 2023*.
- Guo, Z., Ohashi, T. and Kohno, N. 2023. A new specimen of stem odontocete dolphin from the Oligocene of Japan and its implications for the evolution of hearing ability. 2nd Asian Palaeontological Congress. JAPAN.
- 日比野友亮・小林大純・宮本 圭・棟方航平. 2023. 琉球列島から得られたイトヨリダイ科魚類 *Nemipterus balinensis* および 2 未同定種. 日本動物分類学会 2023 年度豊橋大会. 豊橋市立自然史博物館.
- 日比野友亮・出羽優風. 2023. 国内で記録されてきたタケウツボ属魚類の整理および日本初記録の *Strophidon dorsalis* (Seale, 1917) (ウナギ目ウツボ科). 2023 年度日本魚類学会年会. 長崎大学文教キャンパス.
- 星野和夫・中尾拓貴・日比野友亮. 2023. 大分県から得られた標本に基づく九州 2 例目のキリアナゴ. 第 10

回大分自然環境研究発表会. 大分大学.

Konishi, T., Ohara, M., Misaki, A., Matsuoka, H., Street, H. P. and Caldwell, M. W. 2023. A new derived Mosasaurine (Squamata: Mosasauridae) from southwestern Japan reveals unexpected postcranial diversity among flipper-bearing mosasaurs. The Society of Vertebrate Paleontology 83rd Annual Meeting. Duke Energy Convention Center.

松重一輝・大戸夢木・坂上 嶺・日比野友亮・酒井恭平・内田和男・望岡典隆. 2024. ニホンウナギ保全に向けた石倉増殖礁の設置適地：32水系49地点におけるモニタリング結果を用いた探索. 令和6年度日本水産学会大会春季大会. 東京海洋大学品川キャンパス.

松重一輝・安武由矢・日比野友亮・望岡典隆. 2023. 宮崎県広渡川水系におけるウナギ属2種の流程分布と生息地利用. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学文教キャンパス.

蓑島悠介・Fikáček, M.・Liu, H.-C. 2023. コクロヒラタガムシ属とクロヒラタガムシ属の幼虫形態（鞘翅目・ガムシ科）. 日本昆虫学会第83回大会. 佐賀大学.

蓑島悠介. 日本産ツヤヒラタガムシ亜科の分類体系と幼虫形態（鞘翅目・ガムシ科）. 日本甲虫学会第13回大会・日本昆虫分類学会第26回大会. 愛媛大学.

御前明洋・岡本 隆・前田晴良. 2024. 白亜紀後期異常巻アンモノイド *Didymoceras* と *Pravitoceras* の進化過程. 日本古生物学会第173回例会. 東北大学青葉山北キャンパス.

御前明洋・三宅優佳・小松俊文. 2024. 九州南西部甌島列島からの白亜紀後期アンモノイド *Eulophoceras* (Sphenodiscidae) の複数の追加標本. 日本地質学会西日本支部第174回例会. 薩摩川内市川内駅コンベンションセンター (SSプラザせんだい).

三宅優佳・小松俊文・御前明洋・高橋 修. 2024. 鹿児島県下甌島北部に分布する姫浦層群の層序と二枚貝化石の構成. 日本地質学会西日本支部第174回例会. 薩摩川内市川内駅コンベンションセンター (SSプラザせんだい).

棟方航平・日比野友亮・小林大純・宮本 圭. 2023. 沖縄島及び石垣島から得られたイトヨリダイ科の2未記載種. 2023年度日本魚類学会年会. 長崎大学文教キャンパス.

中原 亨・岡部海都・大槻恒介・天野孝保・尾上和久・西 星哉・山口典之. 2023. 小屋島で繁殖するカラムリウミスズメとヒメクロウミツバメの利用海域. 日本鳥学会 2023年度大会. 金沢大学角間キャンパス.

中本 敦・中西 希・伊澤雅子. 2023. ニホンジカの個体数急増が絶滅危惧種ツシマヤマネコの主要な餌資源としての小型哺乳類に与える影響. 日本哺乳類学会 2023年度大会. 琉球大学千原キャンパス.

中西 希. 2023. イリオモテヤマネコの生活史と社会構造. (日本哺乳類学会 100周年記念沖縄大会公開シンポジウム：琉球諸島：その特異な成り立ちと生物多様性). 日本哺乳類学会 2023年度大会. 琉球大学千原キャンパス.

中西 希. 2023. セメント質年輪から迫る亜熱帯に棲むイリオモテヤマネコの生活史. (自由集会：琉球列島の固有哺乳類の基礎生態に迫る). 日本哺乳類学会 2023年度大会. 琉球大学千原キャンパス.

大橋智之・田上 響. 2024. 古第三系漸新統杵島層群産骨質歯鳥類下顎化石の再検討. 日本古生物学会第173回例会. 東北大学青葉山北キャンパス.

大橋智之・御前明洋・前田晴良. 2024. 岩手県田野畑村に分布する下部白亜系宮古層群から産出した獣脚類恐竜の趾骨. 日本古生物学会第173回例会. 東北大学青葉山北キャンパス.

太田泰弘. 2023. 平尾石灰岩（福岡県）と平尾台の自然景観について. 一自然保護と利用の持続的な循環を目指して一. 日本地質学会第130年学術大会. 京都大学.

竹下文雄. 2023. シオマネキ類の認知能力ミニレビュー：どこまで他者を区別できるか（自由集会：ベントスにできること～彼らの「うまくやる」能力を探る～）. 2023年度日本ベントス学会・プランクトン学会合同大会. 北海道大学函館キャンパス.

竹下文雄, 2023. ハクセンシオマネキの密度依存的な近隣オスの妨害とメスの選り好み. 2024 年度日本動物行動学会. 京都大学吉田キャンパス.

4) 外部資金獲得状況

【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金】

学術変革領域研究 (B). 社会があれば知性はあるか: 甲殻類・水圏無脊椎動物の社会と認知能力を捉え直す. 研究分担者: 竹下文雄 (研究代表者: 石原千晶). 2023–2025 年度.

国際共同研究加速基金 (海外連携研究). 毒餌を再利用するヘビ類の防御器官の多様化: 新規生体システムの初期進化過程の探究. 研究分担者: 江頭幸士郎 (研究代表者: 森 哲). 2023–2026 年度.

基盤研究 (B). 自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築. 研究分担者: 真鍋 徹 (研究代表者: 三橋弘宗). 2019–2023 年度.

基盤研究 (B). ヘビ類の餌毒再利用による某業メカニズムの多様化: 外敵刺激依存から自発的攻防へ. 研究分担者: 江頭幸士郎 (研究代表者: 森 哲). 2021–2024 年度.

基盤研究 (C). 里山のすがたを科学的に伝えるための展示手法の開発. 研究代表者: 真鍋 徹. 研究分担者: 藁島悠介・中原 亨・中西 希. 2022–2025 年度.

基盤研究 (C). 雄間競争と雌の配偶者選択の相互作用が織りなすシオマネキ類の性淘汰形質の適応進化. 研究代表者: 竹下文雄. 2023–2026 年度.

基盤研究 (C). 付着・穿孔生物化石から絶滅軟体動物の古生態を探る. 研究代表者: 御前明洋. 2019–2022 年度.

基盤研究 (C). ライバル雄の妨害がドライブするシオマネキ類の配偶者選択におけるシグナル系の複雑化. 研究代表者: 竹下文雄. 2019–2024 年度.

基盤研究 (C). イリオモテヤマネコの生存を支える西表島の食物網構造の解明. 研究代表者: 中西 希. 2018–2023 年度.

基盤研究 (C). 機械学習で読み解く蛇紋岩メランジュ形成の過程と影響. 研究代表者: 森 康. 2020–2024 年度.

基盤研究 (C). 琉球諸島の哺乳類をモデルとした陸生哺乳類の島嶼適応に関する研究. 研究分担者: 中西 希 (研究代表者: 林 昭次). 2023–2025 年度.

基盤研究 (C). 半自然草原における人為的な草原管理がニホンノウサギの行動と生息数に与える影響. 研究分担者: 中西 希 (研究代表者: 中本 敦). 2022–2025 年度.

基盤研究 (C). 比較解剖学的・組織学的手法による古生物の嘴の復元. 研究分担者: 大橋智之 (研究代表者: 田上 響). 2018–2023 年度.

若手研究. 南シナ海西部インドネシア半島縁辺域における熱帯～温帯性魚類の分布障壁の解明. 研究代表者: 日比野友亮. 2020–2023 年度.

若手研究. 渡り鳥における越冬地の社会関係を介したキャリーオーバー効果の実証. 研究代表者: 中原 亨. 2022–2025 年度.

若手研究. 高い生物多様性を内包する里山環境の変遷を追う: 指標種ノスリを用いた検証と予測. 研究代表者: 中原 亨. 2019–2023 年度.

研究活動スタート支援. 固有性喪失か多様性増大か? 島と本土の頻繁な接続に伴う両生類の変遷過程を探る. 研究代表者: 江頭幸士郎. 2021–2024 年度.

【その他の外部資金】

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (公益財団法人自然保護助成金). 対馬におけるニホンジカの個体

数急増が絶滅危惧種ツシマヤマネコの生息環境に与える影響. 研究代表者：中西 希. 2022-2024年度.

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（公益財団法人自然保護助成金）. 希少海鳥カンムリウミスズメの保護増殖に関する研究. 研究分担者：中原 亨（研究代表者：山口典之）. 2021-2023年度.

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（公益財団法人自然保護助成金）. 希少海鳥カンムリウミスズメの保護増殖に関する研究—大規模捕食被害からの回復を助ける—. 研究分担者：中原 亨（研究代表者：山口典之）. 2023-2025年度.

公益信託乾太助動物科学研究助成基金. 生活史全体を考慮した保全状況評価の実施を見据えたヒメクロウミツバメの移動追跡. 研究代表者：中原 亨. 2021-2023年度.

(3) 歴史課

1) 論文・著書など（五十音順）

【学術書・論文等】

上野晶子. 2023 「近世後期から幕末期における蘭学者の西洋料理研究」『民衆史研究』第 106 号 pp. 31-39. (査読なし)

佐藤凌成. 2023. 「戦国期毛利氏の九州進出と国衆の動向」『古文書研究』第 96 号 pp. 36-56. (査読あり)

富岡優子. 2024. 「小倉藩御用絵師 黒川等育の仏涅槃図」『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B 類歴史』第 21 号 pp. 23-28. (査読あり)

中西義昌. 2023. 「大友氏の博多湾支配と城郭・土木事業」『福岡県地方史研究』第 61 号 pp. 61-80. (査読なし)

中西義昌. 2023. 「東肥前からみた戦国期筑紫氏の研究」『鍋島報効会助成 研究報告書』第 11 号 pp. 27-57. (査読なし)

日比野利信. 2024. 「石炭資源の発見と近代政治システムの形成」基盤研究 (C) 「石炭資源の発見と近代政治システムの形成」研究成果報告書. (査読なし)

宮元香織. 2023. 「北九州の離島、藍島と馬島をめぐる考古学的研究」. 東アジア友好博物館シンポジウム要旨集『東アジア海港都市と島』. pp. 121-127. 仁川広域市立博物館. (査読なし)

【その他】

佐藤凌成. 2024. 「秋月氏の最盛期を築いた秋月種実」『西日本文化』第 509 号 pp. 26-29. 一般財団法人西日本文化協会. (査読なし)

日比野利信. 2023. 「「岩松助左衛門と白洲灯台」展 展示解説① 関門海峡周辺の灯台と役割」『燈光』第 68 巻第 6 号 pp. 45-49. 公益社団法人燈光会. (査読なし)

守友 隆. 2023. 「中世・近世の帆柱山系」『地方史ふくおか』第 172 号 pp. 7-9. 福岡県地方史研究連絡協議会. (査読なし)

守友 隆. 2023. 「「岩松助左衛門と白洲灯台」展 展示解説② 岩松助左衛門と白洲灯台」『燈光』第 68 巻第 6 号 pp. 18-22. 公益社団法人燈光会. (査読なし)

守友 隆. 2024. 「秋月藩成立 400 年 初代秋月藩主黒田長興と福岡藩主黒田忠之との関係」『西日本文化』第 509 号 pp. 22-25. 一般財団法人 西日本文化協会. (査読なし)

2) 資料紹介・書評など（五十音順）

佐藤凌成. 2024. 「資料紹介 高野山成慶院『秋月家供養帳』『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告B類歴史』第21号 pp. 1-22. (査読あり)

3) 書籍・普及書など（五十音順）

佐藤凌成. 2024. 「秋月種実」「高橋鑑種・元種」「原田了栄」「宗像氏貞」「蒲池鑑盛・鎮並」「田尻鑑種」新名一仁編『戦国武将列伝 11 九州編』pp. 100-173. 戎光祥出版.

4) 学会等講演・報告（五十音順）

佐藤凌成. 2023. 「対馬築城文書について」. 日本古文書学会大会. 対馬厳原地区公民館. 2023年9月24日.

佐藤凌成. 2023. 「筑前麻生氏の系譜関係について」. 九州史学会日本史部会. 九州大学伊都キャンパス. 2023年12月10日.

中西義昌. 2023. 「河川流域の歴史的景観を復元する研究手法～戦国期（16世紀）の博多と那珂川・御笠川～」. 日本景観生態学会 第33回 淡路大会. 兵庫県立淡路景観園芸学校. 2023年5月26-27日.

中西義昌. 2023. 「(基調報告) 縄張り研究から大友氏の勢力圏を俯瞰する」. 大分県立図書館. 第10回九州城郭研究大会. 2023年11月18-19日.

宮元香織. 2023. 「北九州の離島、藍島と馬島をめぐる考古学的研究」. 第2回東アジア友好博物館交流事業シンポジウム『東アジア海港都市と島』. 仁川広域市立博物館. 2023年12月6日.

5) 外部資金獲得状況

【文部科学省科研費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金】

基盤研究 (C). 小倉織の基礎的研究. 研究代表者：上野晶子. 研究分担者：日比野利信. 2020-2024年度.

基盤研究 (C). 藕糸織の基礎的研究—非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に— . 研究代表者：富岡優子. 2020-2024年度.

基盤研究 (C). 戦国大名領国に関する文献史学・考古学・城郭史の総合的研究—豊後大友氏の検討から— . 研究代表者：中西義昌. 2021-2024年度.

基盤研究 (C). 石炭資源の発見と近代政治システムの形成. 研究代表者：日比野利信. 2019-2023年度.

基盤研究 (C). 石炭資源をめぐる政治と都市社会. 研究代表者：日比野利信. 2023-2025年度.

基盤研究 (C). 幕末維新期の日朝間における情報流通とネットワーク形成—対馬宗家文書を中心に— . 研究代表者：守友 隆. 2020-2024年度.

基盤研究 (C). 日本古代菓子の飲食・供膳様式の解明と菓子再現活用の研究—東アジアの食膳研究 その2— . 研究分担者：宮元香織 (研究代表者：前川佳代). 2022-2025年度.

若手研究 (B). 九州を中心とする仏涅槃図の基礎的研究. 研究代表者：富岡優子. 2014-2023年度.

【その他の外部資金】

(公財) カメイ社会教育振興財団 博物館に関する国際交流に対する助成「東アジア友好博物館シンポジウム「東アジアの海港都市と島」開催事業」. 担当者：宮元香織. 2023年度.

2 1. 博物館刊行物

(1) 研究報告 A 類 (自然史) 第 22 卷 (2024 年) (2024 年 3 月 31 日現在)

J-Stage にてフリーアクセス公開しています (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kmnh/>)。

園山貴之・久志本鉄平・石橋敏章・河野光久. 日本初記録種を含む山口県日本海側で得られたシャコ類の標本に基づく記録. pp. 1–15. [Records on some mantis shrimps (Malacostraca: Stomatopoda) collected from the Sea of Japan, Yamaguchi Prefecture, including a new record from Japan]

中島広喜. シマナシヒロハシャコ (口脚目: ヒラメホソユビシャコ科) の標本に基づく報告. pp. 16–20. [Specimen-based record of *Faughnia serenei* (Stomatopoda: Parasquillidae) in Japan]

内山旬人・内山えりか・蓑島悠介. キバネツノトンボ *Libelloides ramburi* (M'Lachlan) は九州に分布するのか? pp. 21–25. [Is *Libelloides ramburi* (M'Lachlan) distributed in Kyushu Island, Japan?]

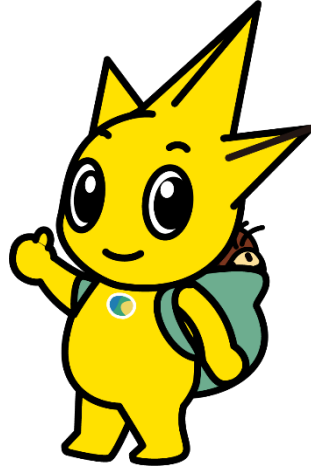
(2) 研究報告 B 類 歴史 第 21 号 (2024 年 3 月 31 日発行)

【研究ノート】

富岡優子「小倉藩御用絵師 黒川等育の仏涅槃図」 pp. 23–28.

【資料紹介】

佐藤凌成「高野山成慶院『秋月家供養帳』」 pp. 1–22.



博物館公式キャラクター「いのたん」

年 報

令和5年度

令和6年8月1日 発行

編集・発行 北九州市立自然史・歴史博物館

北九州市八幡東区東田 2-4-1

TEL 093-681-1011

FAX 093-661-7503

<https://www.kmnh.jp>



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY